

2005年3月期 第3四半期決算概況

ソフトバンク・インベストメント株式会社
イー・トレード証券株式会社
ワールド日栄フロンティア証券株式会社

2005年1月24日

「本資料に掲載されている事項は、ソフトバンク・インベストメント株式会社、イー・トレード証券株式会社、ワールド日栄フロンティア証券株式会社のご案内のほか、各社の事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おください。」

1. 第3四半期 連結決算について

第3四半期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2004年3月期 第3四半期 (2003年4月～12月)	2005年3月期 第3四半期 (2004年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
売 上 高	22,486	58,869	+161.8
営 業 利 益	5,020	17,368	+246.0
経 常 利 益	5,481	19,597	+257.6
当 期 純 利 益	2,286	22,089	+866.3

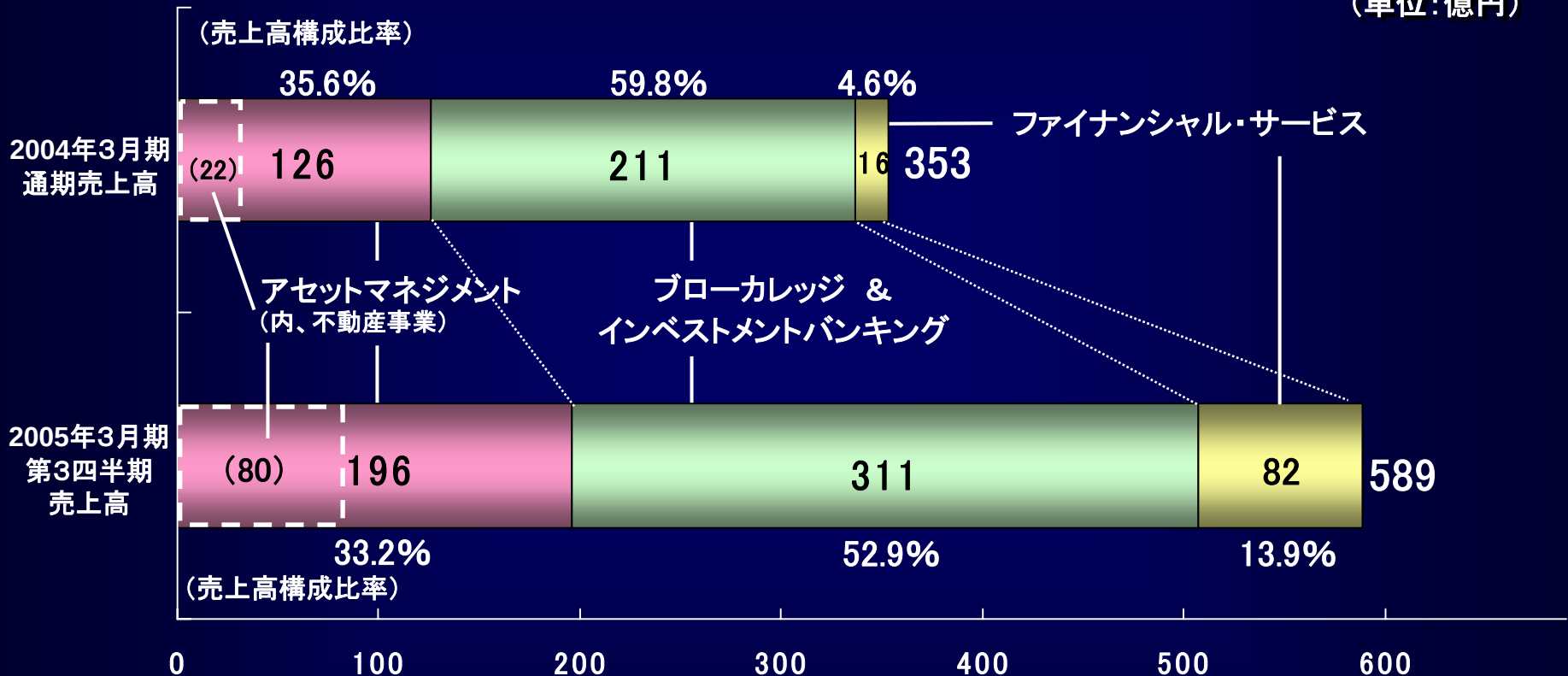
※ 当第3四半期までに新たに連結子会社となった主な企業のうち、E*TRADE KOREA CO.,LTD.、スワン・クレジット(株)につきましては期初から、エース証券(株)、モーニングスター(株)連結につきましては、10月以降の業績がそれぞれ含まれております。

※ 前年同期に関しましては、旧イー・トレード(株)につきましては6月以降、ワールド日栄フロンティア証券(株)につきましては10月以降の連結または個別の業績がそれぞれ含まれておりますが、ファイナンス・オール(株)の連結業績は含まれておりません。

セグメント別売上高の構成比較

3セグメントでバランスの取れた事業ポートフォリオを目指す

(単位: 億円)



※ 2004年3月期通期売上高は12ヶ月間の、2005年3月期第3四半期売上高は9ヶ月間の業績であります。

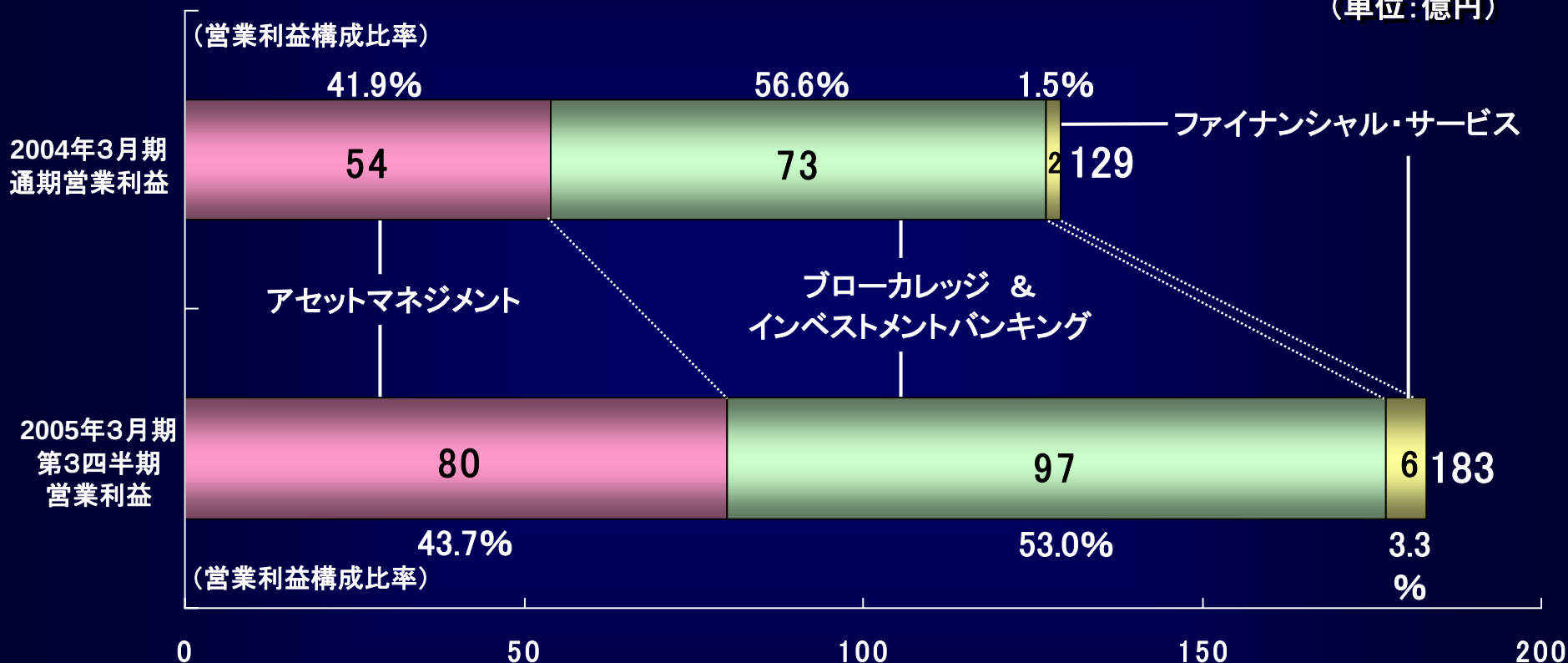
※ 当第3四半期までに新たに連結子会社となった主な企業のうち、E*TRADE KOREA CO.,LTD.、スワン・クレジット(株)につきましては期初から、エース証券(株)、モーニングスター(株)連結につきましては、10月以降の業績がそれぞれ含まれております。

※ ファイナンシャル・サービス事業の2004年3月期通期売上高は、ファイナンス・オール(株)連結の2004年2・3月のみの業績であります。

セグメント別営業利益の構成比較

3セグメントでバランスの取れた事業ポートフォリオを目指す

(単位: 億円)



※ 2004年3月期通期営業利益は12ヶ月間の、2005年3月期第3四半期営業利益は9ヶ月間の業績であります。

※ 当第3四半期までに新たに連結子会社となった主な企業のうち、E*TRADE KOREA CO.,LTD.、スワン・クレジット㈱につきましては期初から、エース証券㈱、モーニングスター㈱連結につきましては、10月以降の業績がそれぞれ含まれております。

※ ファイナンシャル・サービス事業の2004年3月期通期営業利益は、ファイナンス・オール㈱連結の2004年2・3月のみの業績であります。

※ 本項における営業利益につきましては、連結消去および全社費用控除前の数字であり、その合計値は連結決算業績における営業利益とは一致していません。

2. 第3四半期 セグメント別概況

(1)アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業のハイライト

- ① ITファンドが当初出資額を上回る(時価ベース)状況下、運用期日の2年間延長を決定することで、更なるファンド資産の極大化ステージに入った。

(1) 当初出資額 1,505億円に対し、時価のある株式の含み益(2005/1/21現在で評価)を合算したファンド資産は過年度支払報酬208億円控除後1,696億円に達した。

(当初出資額対比112.7%)

Exit社数は2004年1月～12月で20社に達し、2005年も20社を超える社数を見込む。

(2) ITファンドにおける売却損益取込を含め、当四半期だけで40億円強の営業投資有価証券売却益を計上。

- ② ソフトベン2号投資事業組合の償還

ソフトベン2号はIRR20.39%(出資金55億円が150億円に増加)、成功報酬55億円の実績を残し、繰上げ償還を実施。

- ③ 企業再生関連ファンド

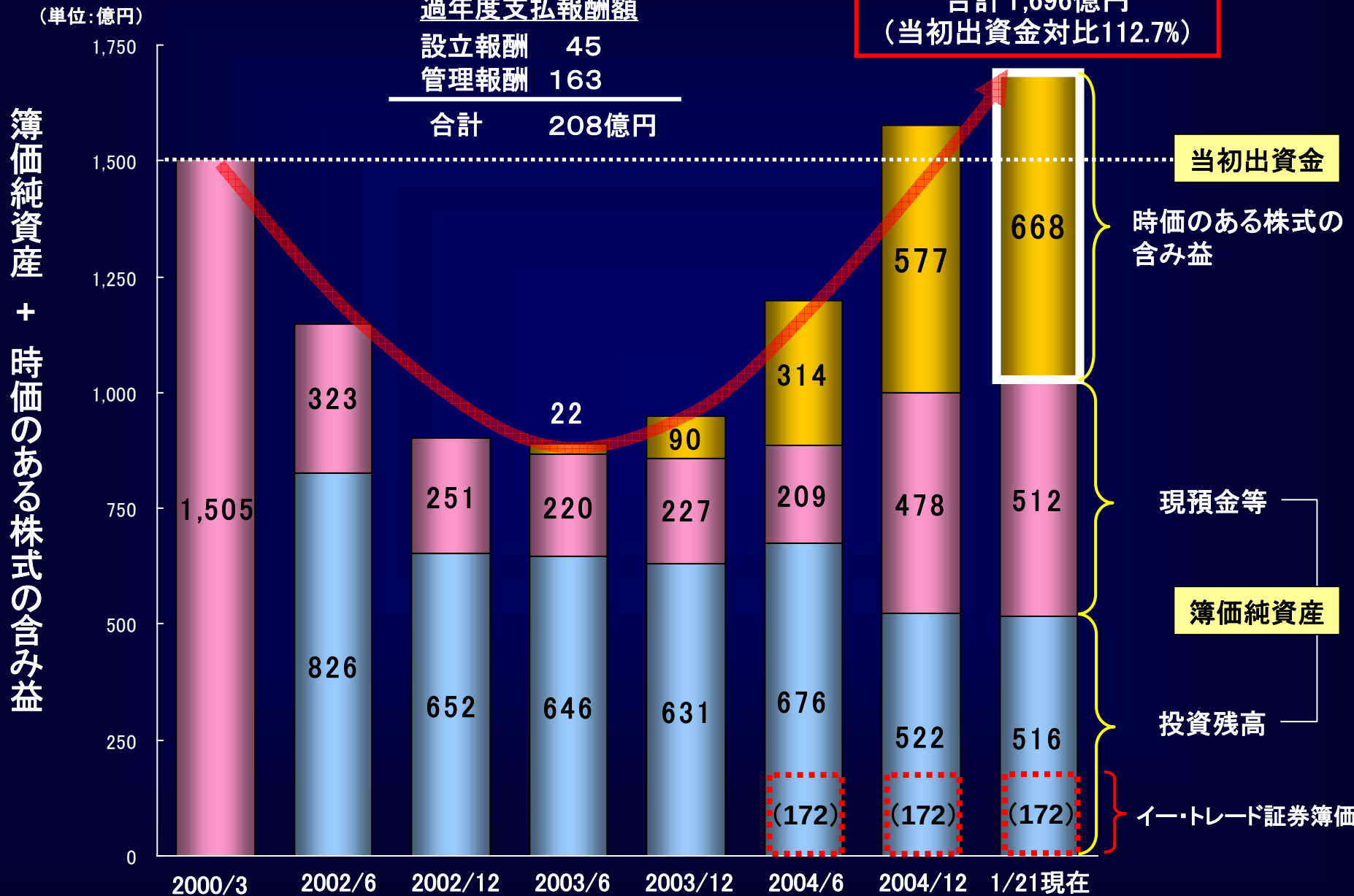
(1) SBI・LBO・ファンド1号から(株)かわでんが民事再生法適用申請企業として初の再上場(JASDAQ)。(投資額654百万円 回収額328百万円 含み益1,236百万円)

(2) SBIメザニンファンド1号(2004年8月設立)は設立後短期間で12社の案件を手掛けた。

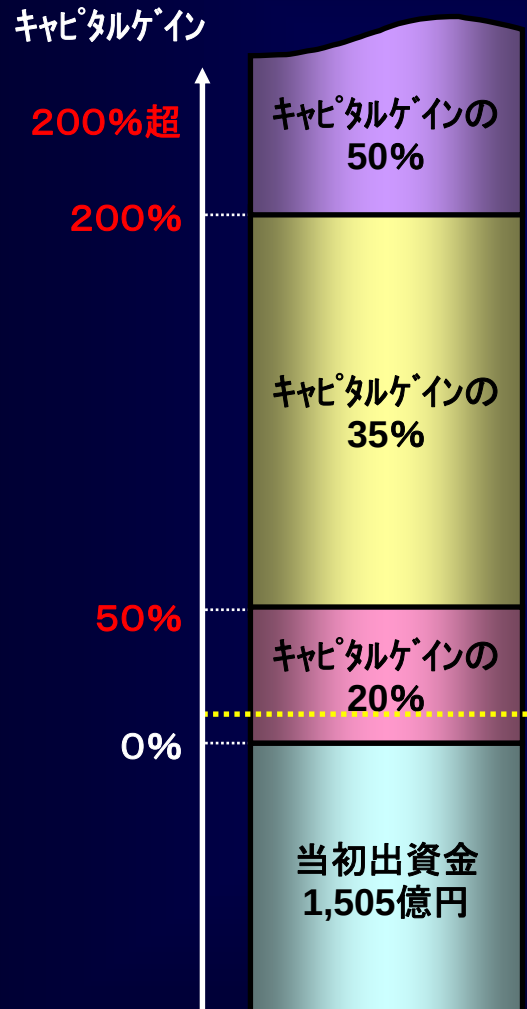
- ④ 不動産事業の伸長

四半期分配型のSBI不動産関連投資事業匿名組合を組成、募集を開始する一方で、物件の売買を通じて当四半期に12億円の売買益を計上。

ITファンドの収穫期到来



ITファンドの成功報酬について



成功報酬の算出テーブル

当初出資金を越えるキャピタルゲイン[※]に対する成功報酬の割合

50%以下の部分……………20%

50%超200%以下の部分…35%

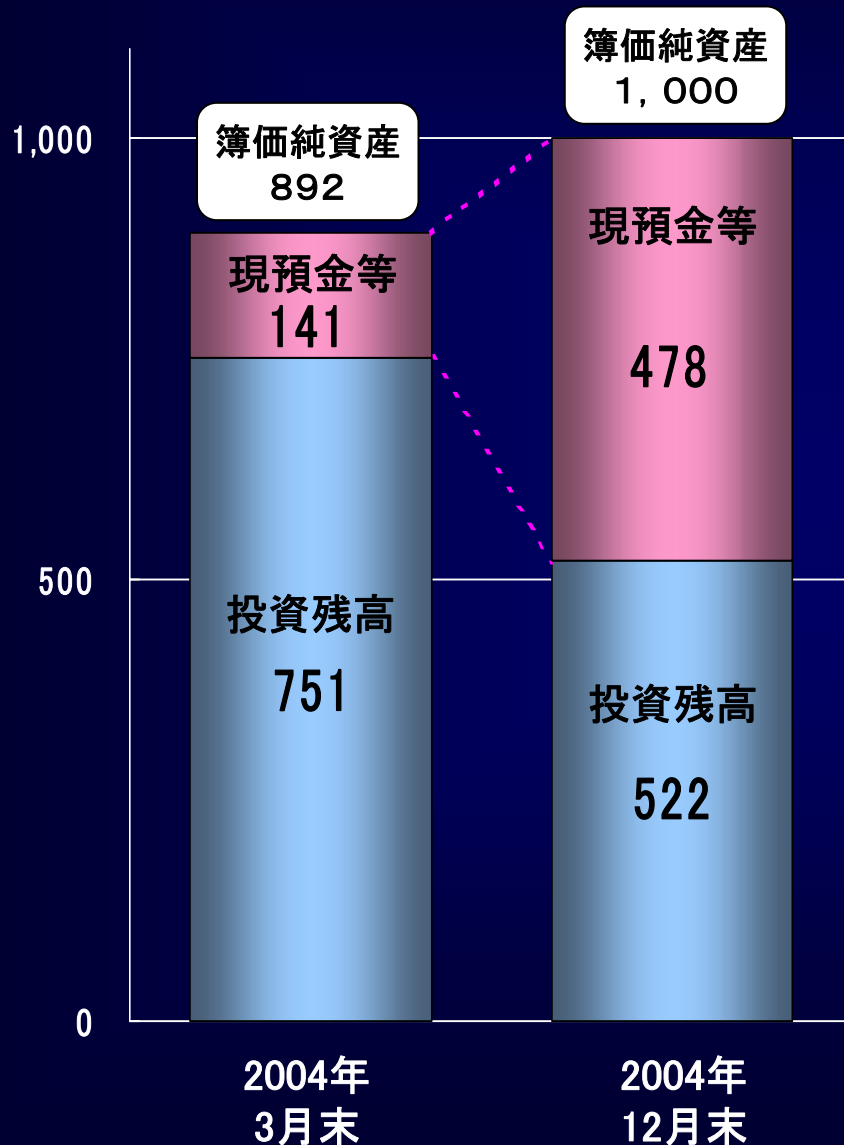
200%超……………50%

ITファンドでは、時価を有する株式の含み益を考慮したファンド資産が当初出資金の112.7%(1/21時価)に達し、成功報酬の計上が視野に入ってきた。

※キャピタルゲイン≡簿価純資産－当初出資金

12月末現在のITファンド簿価純資産推移

(単位: 億円)



主な増減明細

現預金等: 337億円の増加

増減要因

- ・ 投資実行 ▲82億円
- ・ 分配金等支払 ▲64億円
- ・ 株式売却等 211億円
- ・ 株式売却益等 272億円

投資残高: 229億円の減少

増減要因

- ・ 投資実行 82億円
- ・ 株式売却等 ▲211億円
- ・ 株式評価損等 ▲100億円

(2005年1月21日現在の残高)

現預金等 512億円
投資残高 516億円

新規公開又はM&AによるExit社数

2004年12月末現在

	既公開		公開予定
	～2003年12月	2004年1月～12月	2005年1月～12月
既公開および 公開予定社数	57社 (内、海外38社)	20社	20社*

右の3社が上場を承認されております。

- ・2005年2月3日上場予定 Xinyi Glass Holding Co.,Ltd.(香港証券取引所)
- ・2005年2月8日 " MediciNova,Inc(大証ヘラクレス)
- ・2005年2月16日 " 共立印刷(株)(JASDAQ)

2004年1月～12月に以下の20社がIPO又はM&Aを行っております

- ・2004年 2月 2日 ワールド日栄フロンティア証券(株)
- ・2004年 2月27日 ネクサス(株)
- ・2004年 3月 3日 (株)アイディーユー
- ・2004年 3月26日 ベンチャー・リウ・アイ・ライズ証券投資法人
- ・2004年 4月15日 (株)ウェブ・ポート(M&A)
- ・2004年 5月27日 ディップ(株)
- ・2004年 6月 4日 (株)フレームワークス
- ・2004年 6月18日 (株)ランシステム
- ・2004年 7月 1日 (株)アマナ
- ・2004年 7月 8日 (株)ネットプライス
- ・2004年 7月15日 (株)船井財産コンサルタンツ
- ・2004年 7月29日 (株)そーせい
- ・2004年 9月16日 ニッシン債権回収(株)
- ・2004年10月 1日 (株)フレックス・ファーム(M&A)
- ・2004年10月 5日 ベリトランス(株)
- ・2004年10月19日 ティーケー・インターナショナル(株)(M&A)
- ・2004年11月15日 エルピーダメモリ(株)
- ・2004年11月25日 (株)かわでん
- ・2004年11月30日 イー・トレード証券(株)
- ・2004年12月28日 (株)ウェルコム(M&A)

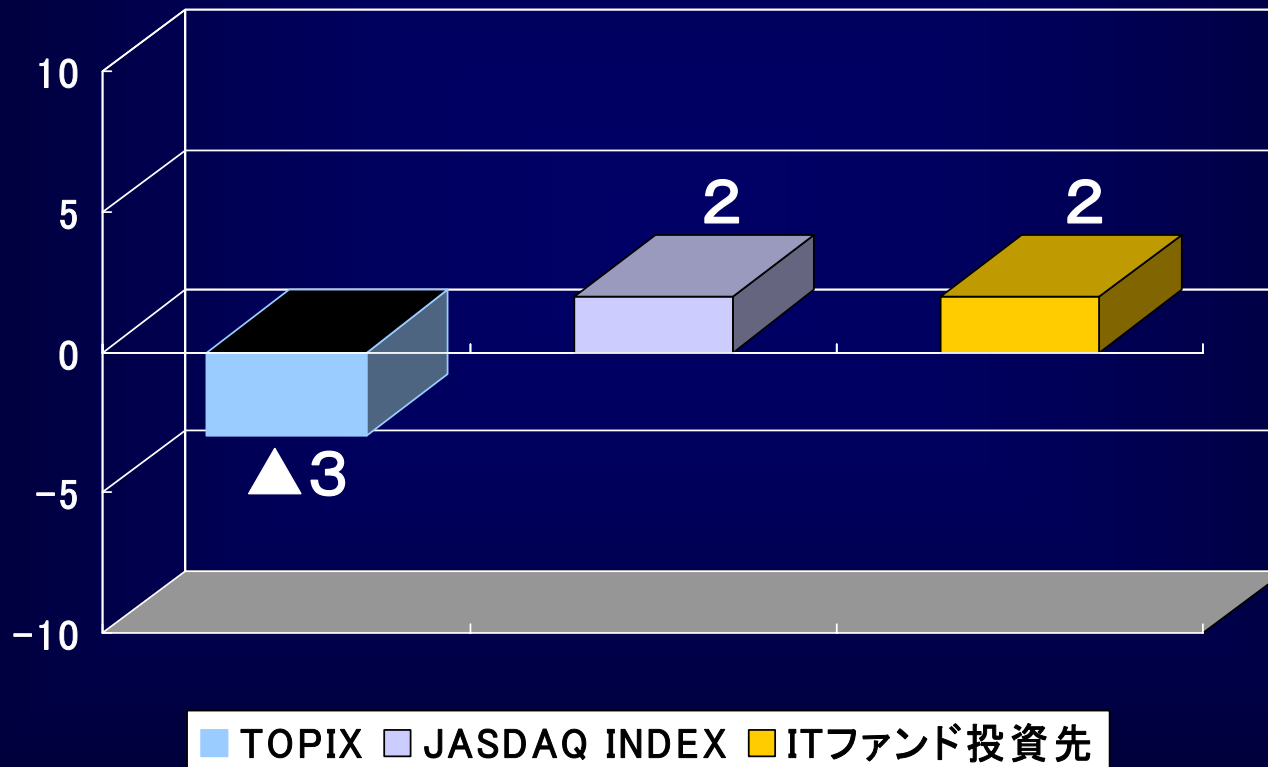
* IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。

・ IPO済みおよびM&Aの社数はすでに売却済みのものを含みます。

ITファンド から上場した投資先企業の 株価上昇率(12月末終値)

(2004年3月末比同年12月末終値上昇率)

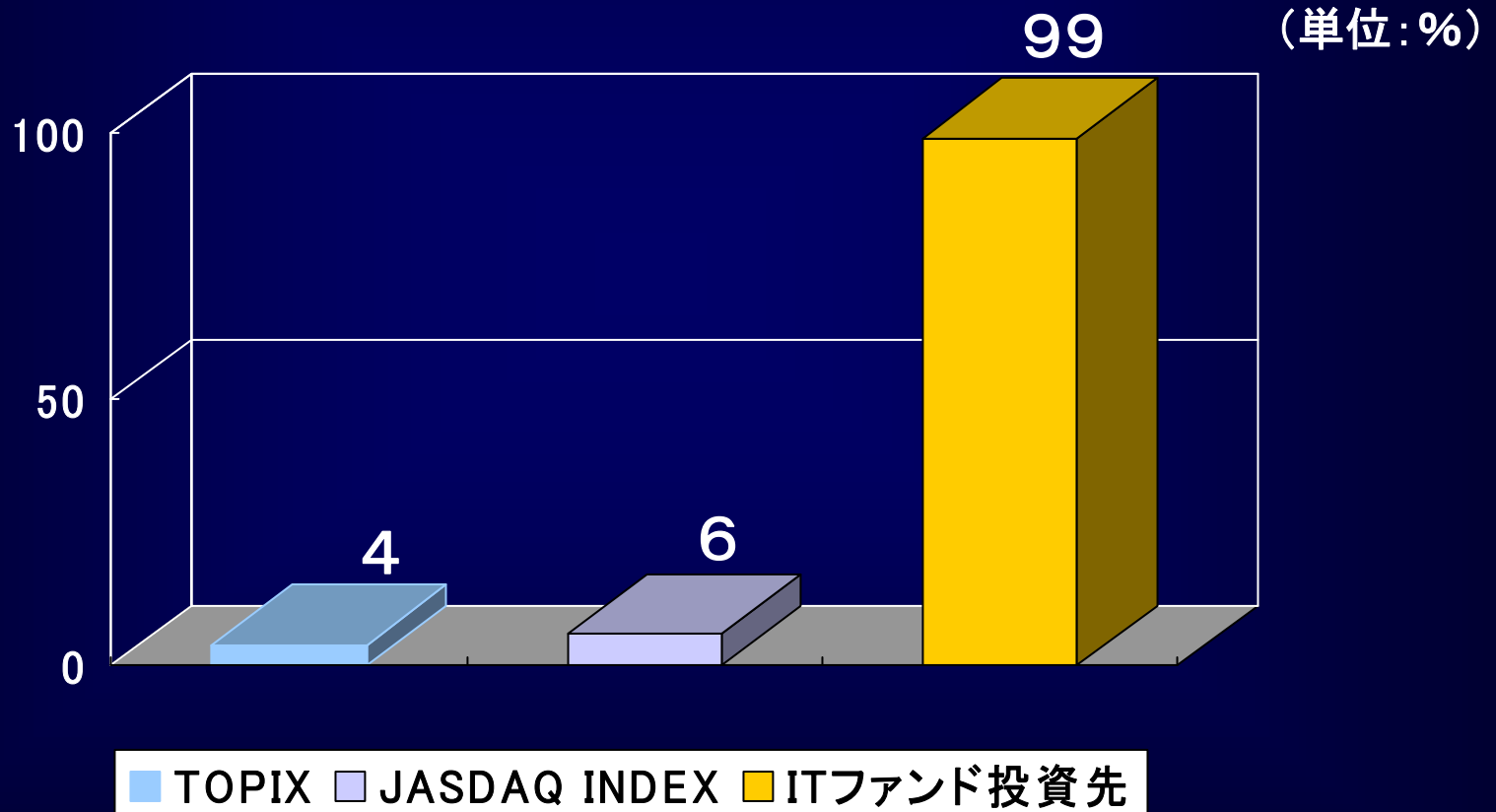
(単位: %)



※ 当ファンドによる各社への投資簿価残高(2004年12月末時点)で各騰落率を加重平均しております。
2004年4月～9月に上場した企業については、公募価格からの騰落率にて算出しております。

ITファンド から上場した投資先企業の 株価上昇率(12月末終値)

市場平均を圧倒的に上回る上昇率
(2004年9月末比同年12月末終値上昇率)



※ 当ファンドによる各社への投資簿価残高(2004年12月末時点)で各騰落率を加重平均しております。
当該期間中に上場した企業については、公募価格からの騰落率にて算出しております。

2004年に新規公開した投資先の株価上昇率

投資先企業名	公開 時期	公募価格 (A)	初値 (B)	上昇率(%)	直近株価 2005年1月21日 終値(C)	上昇率(%)
				(B/A)		(C/A)
ネクサス(株) ※1	2月	173,333	233,333	134.6	705,000	406.7
(株)アイディーユー ※1	3月	40,000	82,000	205.0	246,000	615.0
ベンチャー・リヴァイタイズ 証券投資法人	3月	9,850	10,250	104.1	10,000	101.5
ディップ(株) ※1	5月	200,000	400,000	200.0	230,000	115.0
(株)フレームワークス ※1	6月	62,500	175,000	280.0	168,000	268.8
(株)ランシステム ※1	6月	216,667	600,000	276.9	460,000	212.3
(株)アマナ ※1	7月	2,300	6,260	272.2	2,760	120.0
(株)ネットプライス ※1	7月	283,333	1,536,667	542.4	757,000	267.2
(株)船井財産コンサルタンツ ※1	7月	620,000	1,253,333	202.2	1,280,000	206.5
(株)そーせい	7月	800,000	800,000	100.0	631,000	78.9
(株)ニッシン債権回収 ※1	9月	180,000	368,000	204.4	316,000	175.6
ベリトランス(株) ※1	10月	150,000	337,500	225.0	315,000	210.0
エルピーダメモリ(株)	11月	3,500	3,610	103.1	4,070	116.3
(株)かわでん	11月	190,000	198,000	104.2	177,000	93.2
イー・トレード証券(株) ※1	11月	133,333	166,666	125.0	335,000	251.3

平均上昇率:256.59%

平均上昇率:269.84%

※1 株式分割考慮後の数値であります。

※2 このほかM&A等によりワールド日栄フロンティア証券(株)、

(株)ウェブ・ポート、(株)フレックス・ファーム、ティーケーインターナショナル(株)、(株)ウェルコムが公開株となっております。

2004年に新規公開した投資先銘柄のパフォーマンス

(単位:倍)

投資先企業名	公開月	公募価格対ファンド簿価比	初値対ファンド簿価比
ネクサス(株)	2月	1.9	2.5
(株)アイディーユー	3月	2.7	5.5
ディップ(株)	5月	499.9	999.8
(株)フレイムワークス	6月	1.3	3.5
(株)ランシステム	6月	0.7	1.8
(株)アマナ	7月	3.8	10.4
(株)ネットプライス	7月	13.6	73.8
(株)船井財産コンサルタンツ	7月	3.7	7.5
(株)そーせい	7月	16.0	16.0
ニッシン債権回収(株)	9月	3.6	7.4
ベリトランス(株)	10月	4.8	10.9
エルピーダメモリ(株)	11月	1.4	1.4
(株)かわでん	11月	3.8	4.0
イー・トレード証券(株)	11月	1.5	1.9

第3四半期（累計）の投資実績（全ファンド）

公開可能性の高い レイターステージ企業を中心に投資

	2004年4月～9月			当四半期			第3四半期累計*		
	国内	海外	小計	国内	海外	小計	国内	海外	合計
投資社数 （社）	13 (5)	4 (1)	17 (6)	16 (8)	2 (2)	18 (10)	27 (13)	5 (3)	32* (16)
投資金額 （億円）	79 (28)	16 (1)	95 (28)	49 (54)	7 (1)	56 (55)	128 (82)	23 (1)	151 (83)

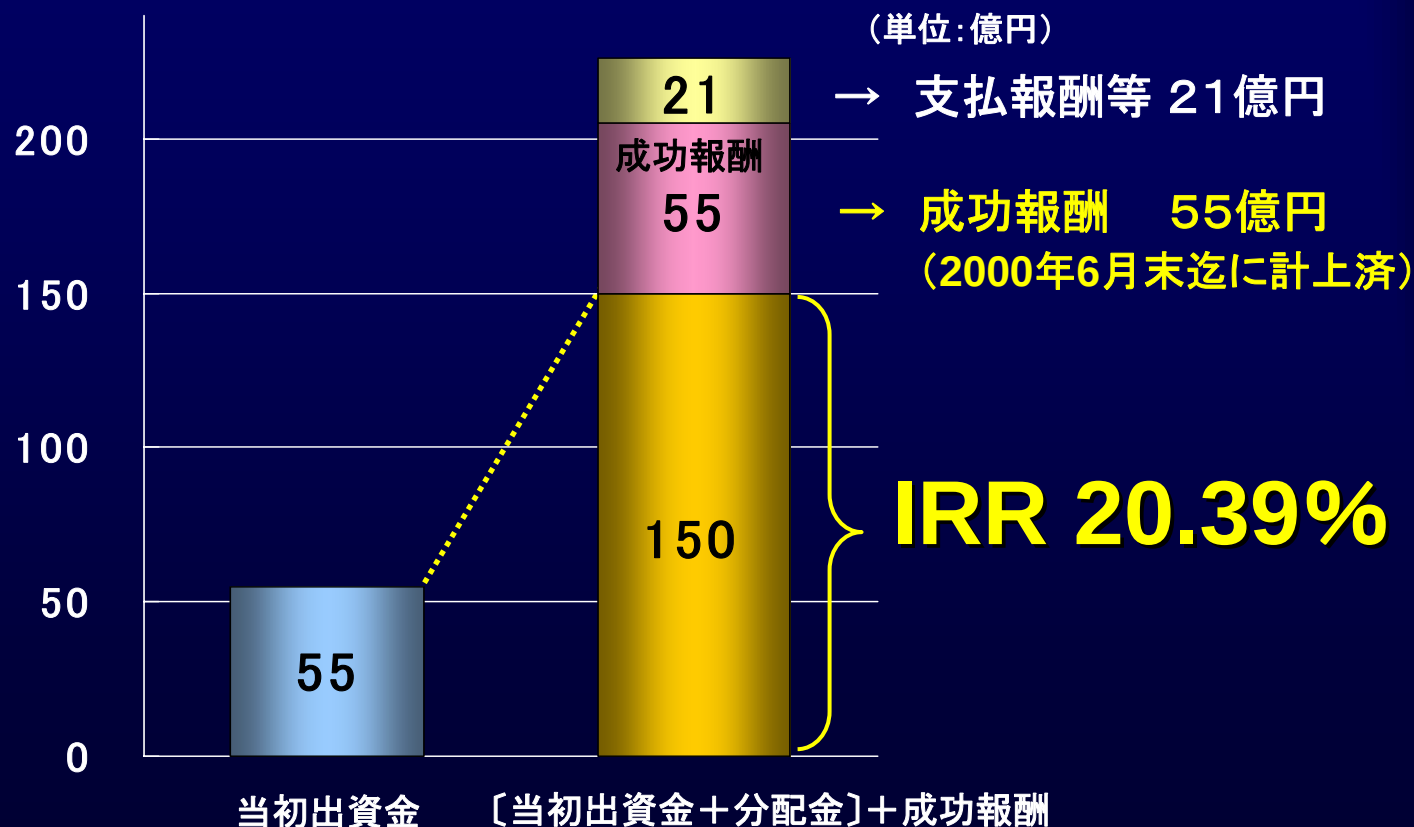
- ・（ ）内は、前年同期間（2003年4月～2003年12月）の投資社数及び投資金額であります。
 - ・ 合計投資件数のうち、新規投資は26社94億円（10社61億円）、既存投資先への追加投資は6社57億円（6社22億円）であります。
 - ・ 海外につきましては投資実行時の為替レートで円換算しております。
- * 2004年4月～9月及び当四半期の両期間において同じ投資先に投資している場合、通期累計で投資社数の重複を排除しております。

ソフトベン2号投資事業組合のパフォーマンス

運用期間: 95年11月～04年10月

(当初運用期日は05年11月30日)

出資金55億円が150億円(約2.7倍)に増加、成功報酬は55億円を計上



※2004年11月15日のファンド解散時のIRRは20.39%です。但し、この解散時点におきましては将来の偶発債務に備え残余財産の一部の分配を保留しており、今後これらの留保金が組合員に分配された場合には、最終利回りは更に向上致します。

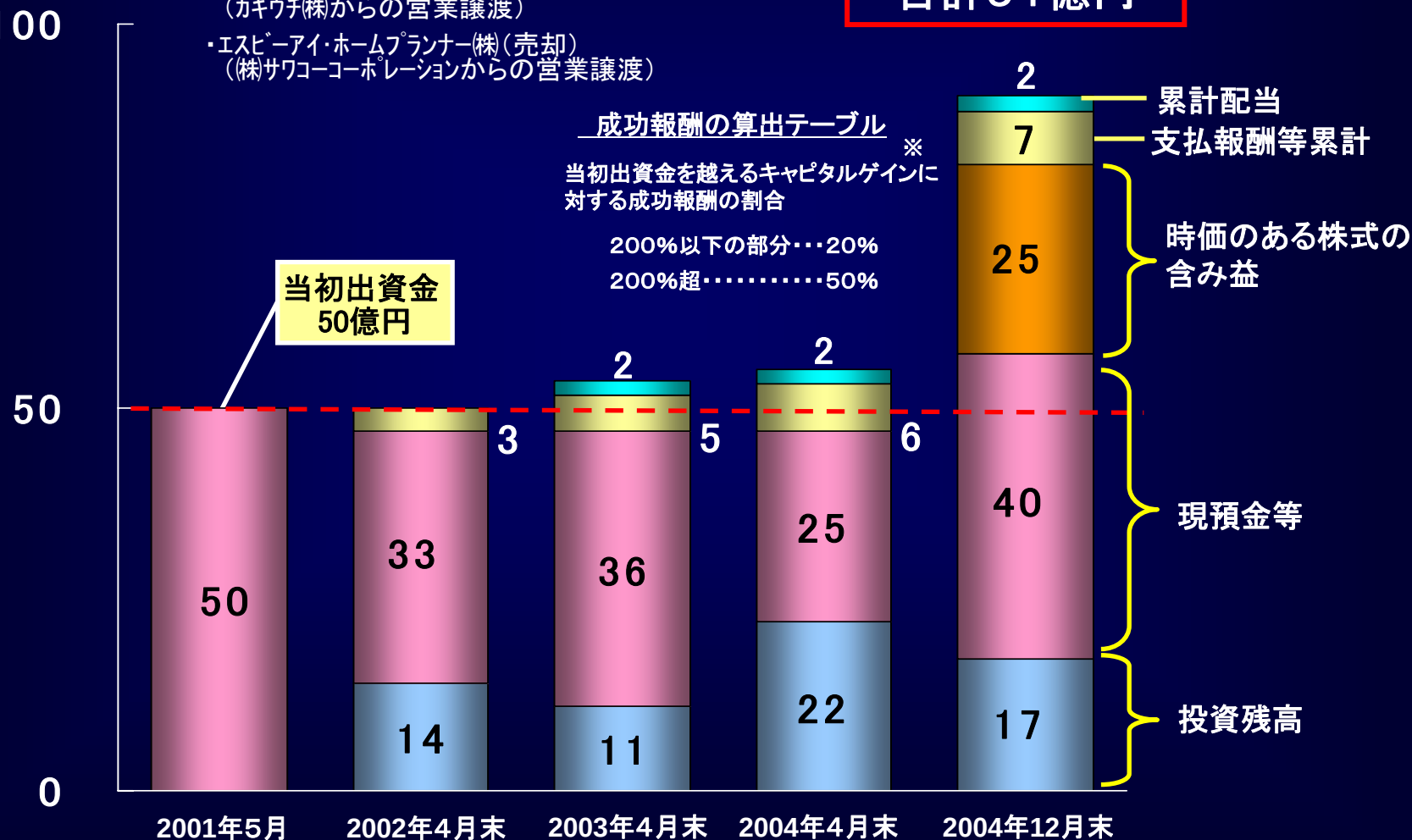
SBI・LBO・ファンド1号の状況

SBI・LBO・ファンド1号からのExit実績

(単位:億円)

- ・(株)かわでん(再上場)
- ・ティーケー・インターナショナル(株)(株式交換)
(カキウチ(株)からの営業譲渡)
- ・エスビー・アイ・ホームプランナー(株)(売却)
(株)サワコー・コーポレーションからの営業譲渡)

合計91億円



※キャピタルゲイン＝簿価純資産－当初出資金

SBIメザニンファンド1号の状況

SBIメザニンファンド1号

メザニン投資及びDIPファイナンスに特化した31億円のパイロットファンドを2004年8月23日に設立し、短期間で12社のディールをクローズさせた。

会社名	契約締結時期	状況
洵 紙	2004年／8月	民事再生中
A工業(印刷業)	2004年／9月	正常先
B社(金属加工業)	2004年／10月	民事再生中
C社(金属加工・販売業)	2004年／10月	民事再生中
D社(建築材料製造業)	2004年／10月	民事再生中
E社(印刷業)	2004年／ 11月	正常先
滴水(分譲住宅販売)	2004年／ 11月	民事再生中
アクアクララジャパン (ミネラルウォーター製造販売)	2004年／ 11月	民事再生中
F社(不動産賃貸業)	2004年／ 12月	正常先
G社(ゲーム・ビデオ販売業)	2004年／ 12月	正常先
H社(アパレル製造業)	2004年／ 12月	民事再生中
I社(ゼネコン)	2005年／ 1月	正常先

投資総額 10億円(2004年末残高)

SBIメザニンファンド1号の実績をベースに、**100億円程度**の2号ファンドの募集準備に入る。

(2)証券関連事業

証券関連事業のハイライト

① イー・トレード証券のJASDAQ市場への上場

	上場日(2004/11/30)	2005/1/21
株価	166,666円*	335,000円
時価総額	1,546億円	3,192億円

*(分割考慮後)

② イー・トレード証券は当四半期に営業収益・利益ともに最高を達成

- (1) 当第3四半期は、四半期ベースでも営業収益・利益ともに最高を達成。
- (2) 営業収益は前年同期比1.8倍に拡大。口座数の増加により、委託手数料収入が前年同期比1.7倍に増加、また信用口座の増加により、金融収益も大幅増(226%)。
- (3) 今第3四半期における平均月間開設口座数は2万口座と高水準を維持。12月9日には、オンライン専業証券で初めて、50万口座を突破した。(1月20日現在523,568口座)

③ グループ証券会社との営業面、コスト面でのシナジーが発揮

SBI投資先関連の引受業務が急拡大。

グループ証券会社3社の第3四半期累計で公募・売出し引受社数143社(うちSBI投資先27社)、引受手数料475百万円

グループ化により証券事務関連費用などのボリュームディスカウントを実現。

証券子会社 個別業績

2004年4月～12月

(単位:百万円)

	合 計	イー・トレード	ワールド日栄 フロンティア	エース	フィデス	E*TRADE KOREA
営業収益	34, 892	18, 582	8, 221	6, 200	227	1, 659
経常利益	10, 772	7, 266	2, 371	961	2	170
当期純利益	7, 865	3, 829	2, 643	1, 233	1	158

※ 合計は各社間の取引等を控除しない単純合算となっております。

※ E*TRADE KOREAの数値につきましては、2004年12月30日付為替レート(100Won=9.97円)で換算しております。

SBIグループの証券ビジネス規模

(2004年12月末現在)

	※ 合 計	イー・トレード	ワールド日栄 フロンティア	エース	フィデス	(ご参考) E*TRADE KOREA
証 券 口 座 数	632, 881 口座	512, 617 口座	63, 377 口座	56, 152 口座	735 口座	62, 678 口座
信 用 取 引 口 座 数	54, 501 口座	51, 090 口座	2, 094 口座	1, 317 口座	—	—
1 日 当 た り 平 均 株 式 売 買 代 金	1, 267 億円	1, 215 億円	31 億円	20 億円	—	69 億円
預 り 資 産	25, 301 億円	18, 069 億円	3,992 億円	3,239 億円	—	413 億円

※上記合計にはイー・トレード、ワールド日栄フロンティア、エース、フィデスの各証券会社の合計数値であり、E*TRADE KOREAは含まれておりません。

- ・1日当たり平均株式売買代金は、2004年12月における1ヶ月間の各営業日平均値であります。
- ・E*TRADE KOREAの数値につきましては、2004年12月30日付為替レート(100Won=9.97円)で換算しております。

証券業界におけるポジショニング①

営業収益（2004年9月の上場証券会社の連結決算）

単位：百万円

	名称	営業収益
1	野村	540,170
2	大和グループ	243,180
3	日興コーディアルグループ	177,420
4	三菱	67,384
5	新光	58,465
6	UFJつばさ	42,886
7	岡三	30,515
9	SMBCフレンド	26,998
8	みずほインベスターズ	23,187
10	イー・トレード + WNフロンティア+エース	※ 22,266
11	東海東京	19,973
12	松井	18,942
13	いちよし	11,484
14	MBH	10,295
15	丸三	10,258
16	コスモ	10,098
17	東洋	9,608
18	水戸	8,071
19	エイチ・エス	4,709
20	高木	4,706

※該当数値はイー・トレード証券、ワールド日栄フロンティア証券、エース証券の単純合算数値です。

（出所：各社ホームページ等公表資料より当社にて集計）

証券業界におけるポジショニング②

経常損益(2004年9月の上場証券会社の連結決算)

単位:百万円

	名称	経常利益
1	野村	88,673
2	大和グループ	57,259
3	日興コーディアルグループ	48,184
4	松井	11,918
5	三菱	10,736
6	SMBCフレンド	10,384
7	UFJつばさ	8,451
8	新光	8,125
9	イー・トレード + WNフロンティア+エース	※ 7,242
10	岡三	7,049
11	みずほインベスターズ	4,738
12	MBH	3,983
13	いちよし	3,450
14	東海東京	2,865
15	丸三	2,822
16	東洋	2,684
17	水戸	2,601
18	エイチ・エス	1,542
19	高木	1,138

※該当数値はイー・トレード証券、ワールド日栄フロンティア証券、エース証券の単純合算数値です。

(出所:各社ホームページ等公表資料より当社にて集計)

証券業界におけるポジショニング③

証券総合口座数ランキング

	名 称	口 座 数 2004年9月 末
1	野村	3,479,000
2	大和	2,423,000
3	日興コーディアル	1,439,020
4	新光	948,000
5	イー・トレード + WNフロンティア+エース	※1 568,106
6	UFJつばさ	484,000
7	三菱	※2 466,653
8	MBH	※3 388,254
9	松井	201,002
10	楽天	198,453
11	カブドットコム	181,280

※1該当数値はイー・トレード証券、ワールド日栄フロンティア証券、エース証券の単純合算数値です。

※2三菱証券は有残口座数

※3MBHはマネックス証券と日興ビーンズ証券の単純合算口座数です。

(出所：各社ホームページ等公表資料より当社にて集計)

証券業界におけるポジショニング④

預り資産残高ランキング

(単位: 百万円)

順位	名称	2004年9月末
1	野村證券	63,540,700
2	大和証券SMBC	19,806,200
3	日興コーディアル証券	19,787,000
4	大和証券	19,162,300
5	三菱証券	10,464,666
6	日興シティーグループ	9,865,600
7	新光証券	9,491,100
8	UFJつばさ証券	6,716,894
9	みずほ証券	5,936,753
10	みずほインベスターズ証券	4,633,544
11	東海東京証券	3,223,900
12	SMBCフレンド	3,030,200
13	岡三証券	2,636,800
14	イー・トレード+WNフロンティア+エース	1,950,988
15	丸三証券	1,370,879
16	MBH	1,318,300
17	コスモ証券	1,284,043
18	いちよし証券	1,200,357
19	松井証券	1,003,057
20	東洋証券	916,467
21	水戸証券	740,299

※出所: 金融ビジネス

※該当数値はイー・トレード証券、ワールド日栄フロンティア証券、エース証券の単純合算数値です。

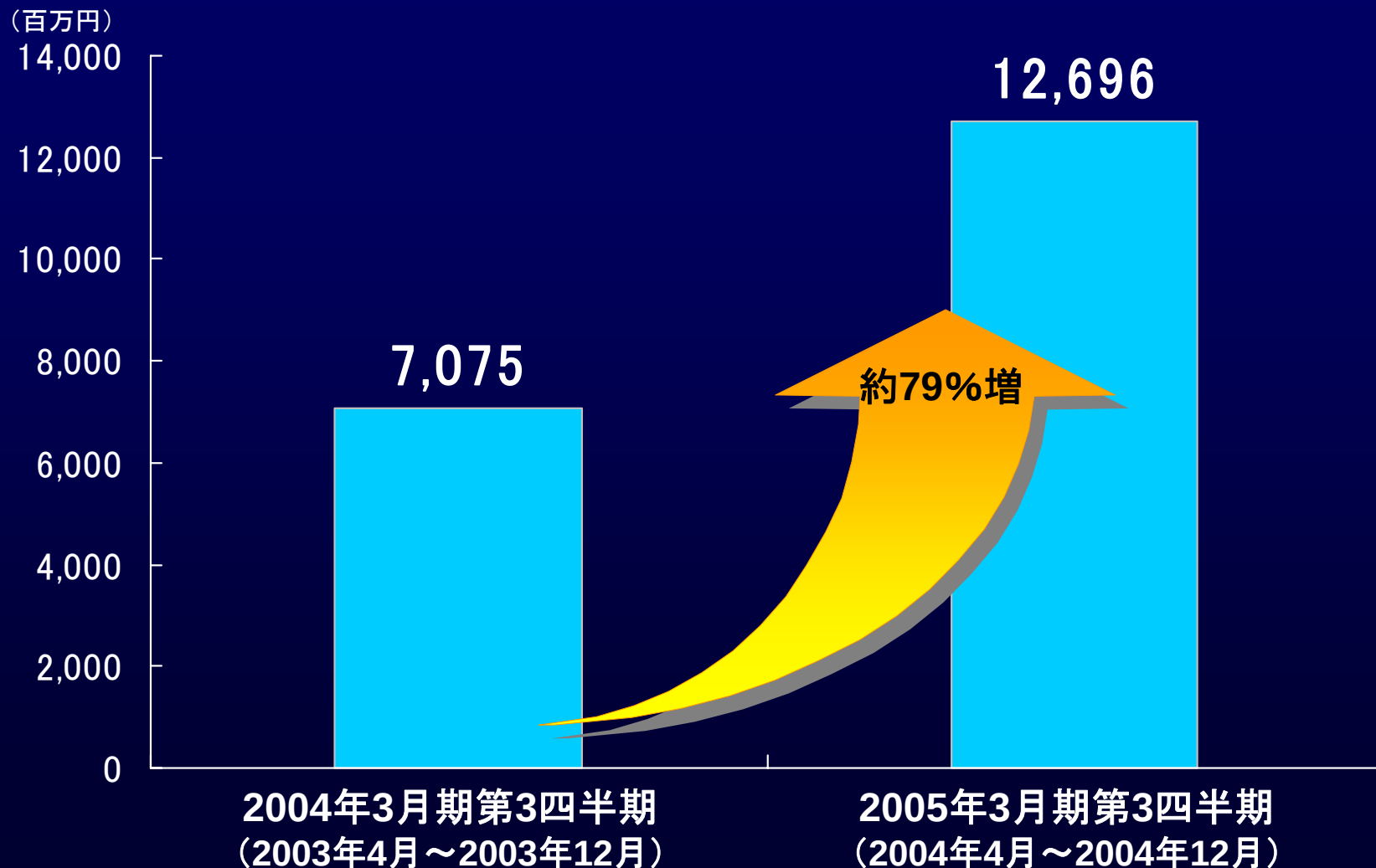
イー・トレード証券 個別業績

(単位:百万円)

	2004年3月期 第3四半期 (2003年4月～12月)	2005年3月期 第3四半期 (2004年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	9, 928	18, 582	+87.2
営業利益	2, 923	7, 124	+143.7
経常利益	2, 961	7, 266	+145.3
当期純利益	1, 408	3, 829	+171.8

※ 2003年4・5月の業績はSBI連結業績には含まれておりません。

委託手数料収入の大幅増

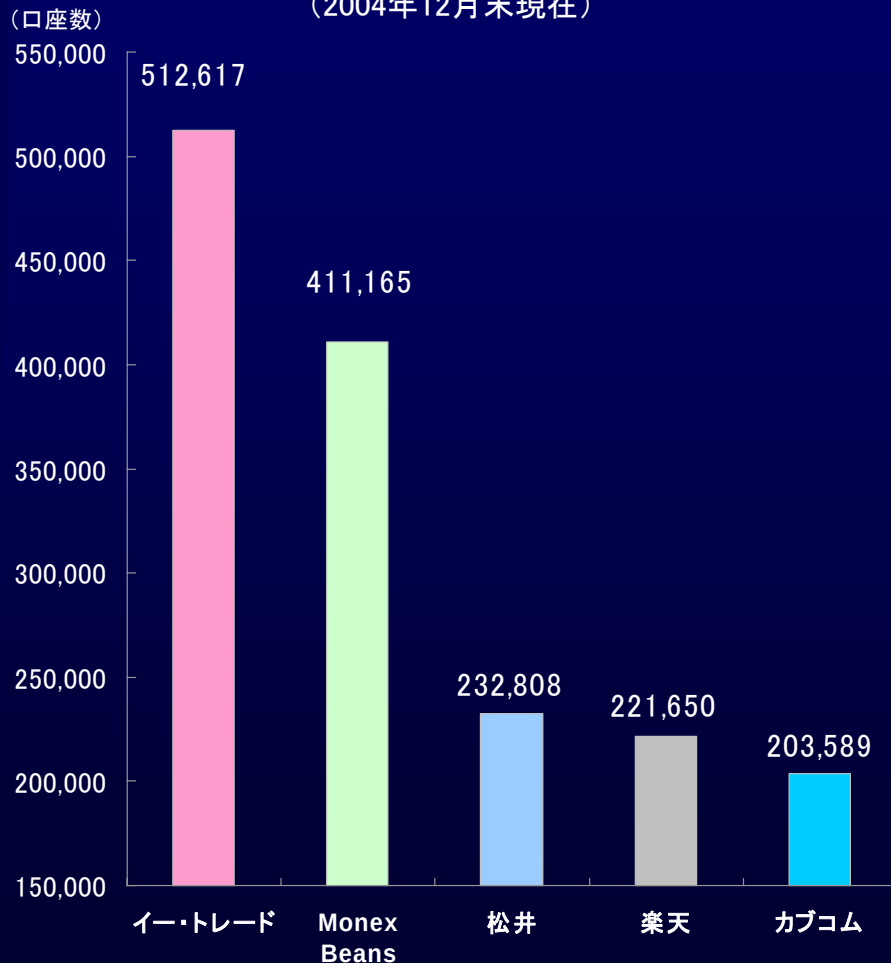


①－(i)

主要オンライン証券の口座比較

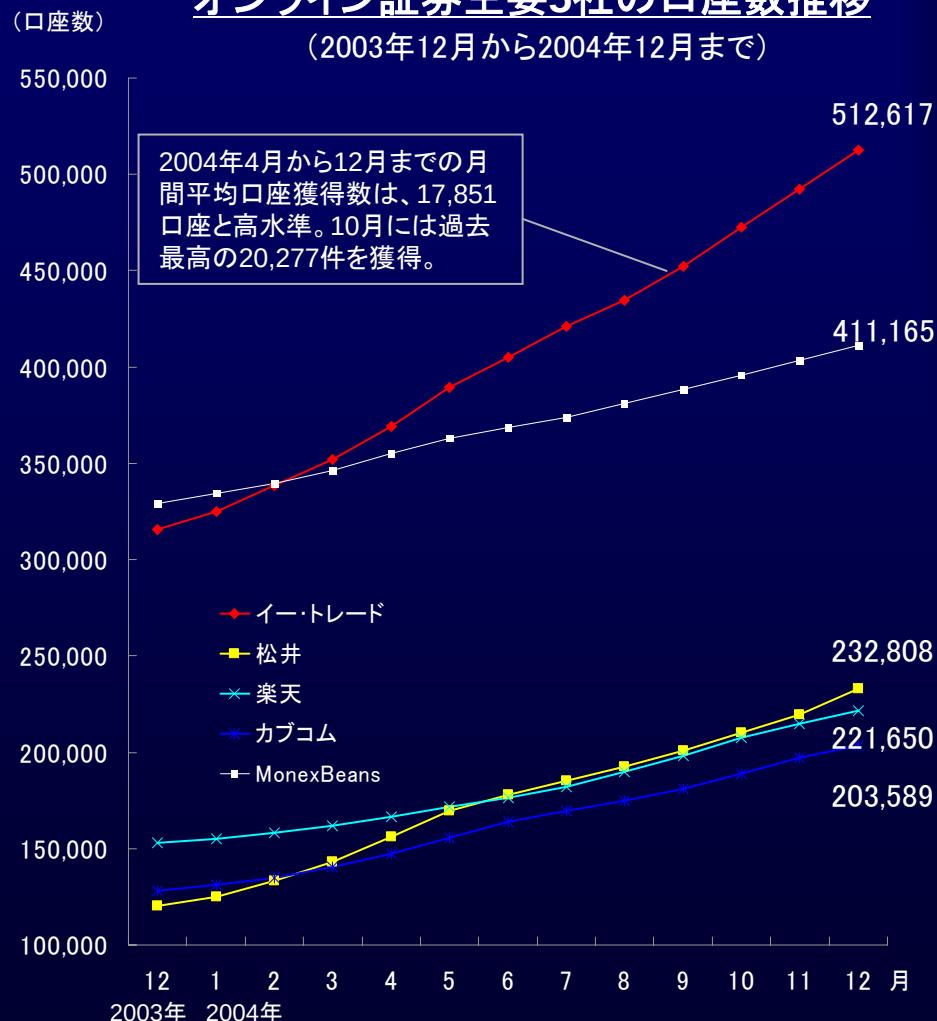
主要オンライン証券5社の口座数

(2004年12月末現在)



オンライン証券主要5社の口座数推移

(2003年12月から2004年12月まで)



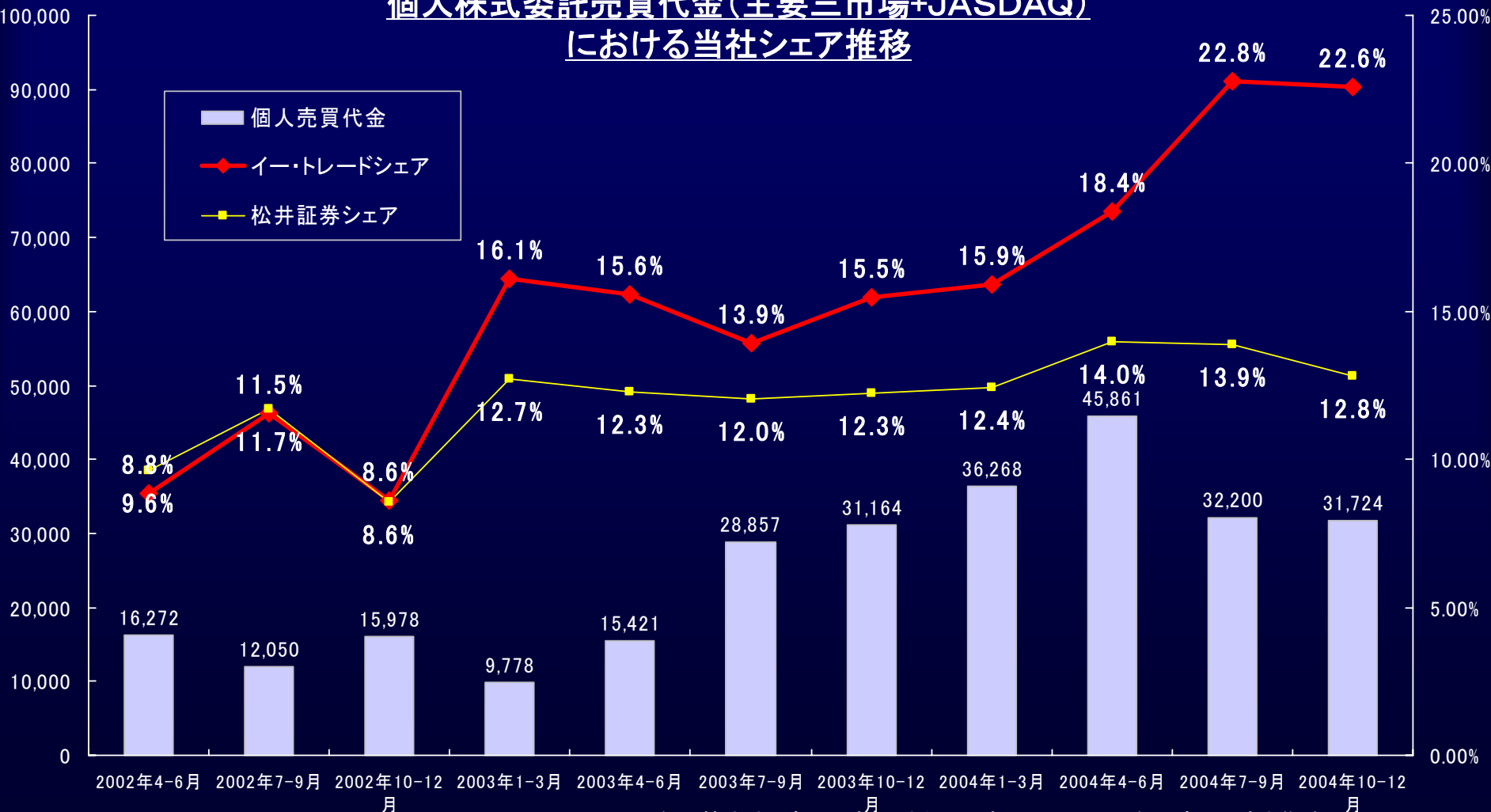
①－(ii)

個人株式委託売買代金シェア

(個人売買代金、十億円)

(当社シェア、%)

個人株式委託売買代金(主要三市場+JASDAQ) における当社シェア推移



※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQの個人売買代金を集計。

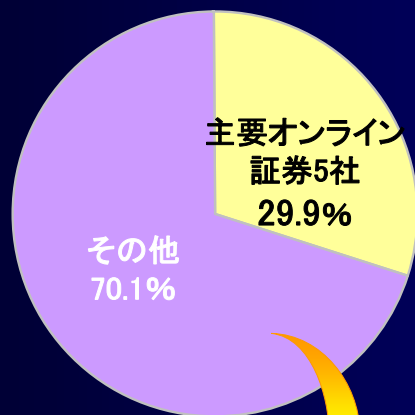
※ 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

①ー(iii)

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

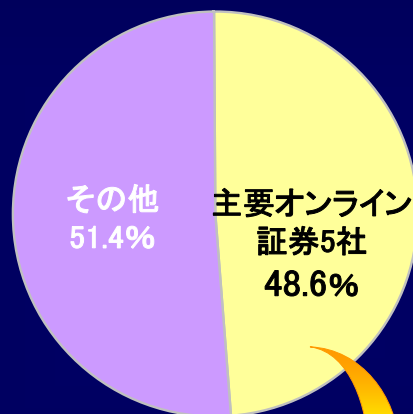
過去3年間の同期間比較

2002年10月～12月



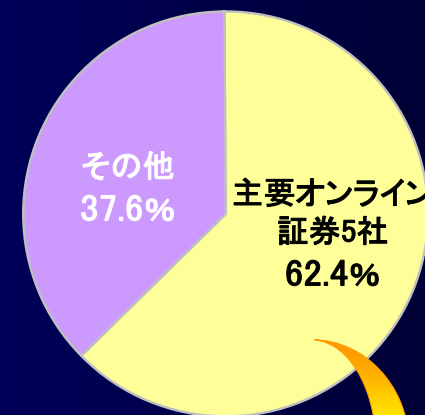
イー・トレード	8.6%
松井証券	8.6
DLJ(楽天証券)	6.9
Monex Beans	3.2
カブドットコム	2.5

2003年10月～12月



イー・トレード	15.4%
松井証券	12.3
DLJ(楽天証券)	9.6
Monex Beans	6.9
カブドットコム	4.4

2004年10月～12月



イー・トレード	22.6%
松井証券	12.8
楽天証券	12.3
Monex Beans	9.0
カブドットコム	5.7

※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

※ 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はMonexBeansとして合算。

①ー(iv)

主要オンライン証券の株式委託売買代金推移

主要オンライン証券5社の1日あたり平均売買代金の推移

(2002年12月から2004年12月まで)

(百万円)

2004年12月における
一日あたり売買代金
(百万円)

イー・トレード
121,529

松井証券
68,695

楽天証券
66,119

Monex Beans
52,030

カブコム
31,431

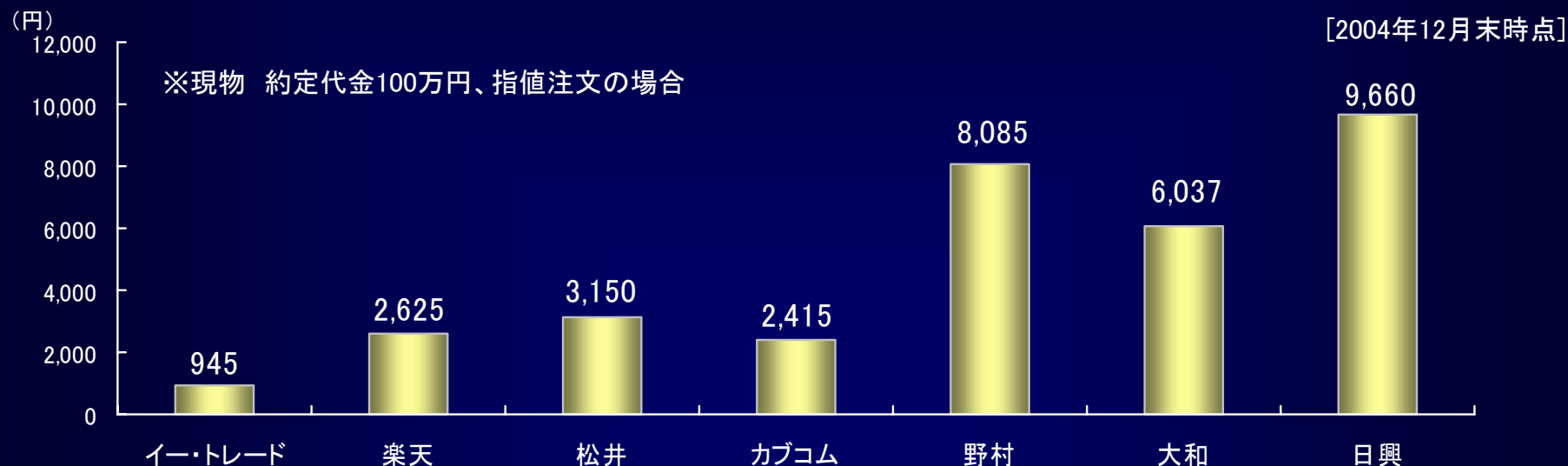
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
2002年 2003年 2004年

※ ホームページ等公表資料より当社にて集計

主要証券会社の株式委託売買代金推移



①ー(vi) 主要証券会社との手数料比較



	50万円	100万円	150万円	500万円	1000万円
イー・トレード	735	945	1,155	1,680	1,680
楽天	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625
松井	3,150	3,150	3,150	6,300	12,600
カブドットコム	2,100	2,415	2,415	2,415	2,415
野村(ネット)※	4,042	8,085	11,655	36,015	62,265
大和(ネット)	3,018	6,037	8,347	24,517	41,580
日興(ネット)	4,830	9,660	13,440	36,120	61,320

※ほととダイレクト部経由の場合
出所: 各社ホームページより計算。キャンペーン手数料は含まず。

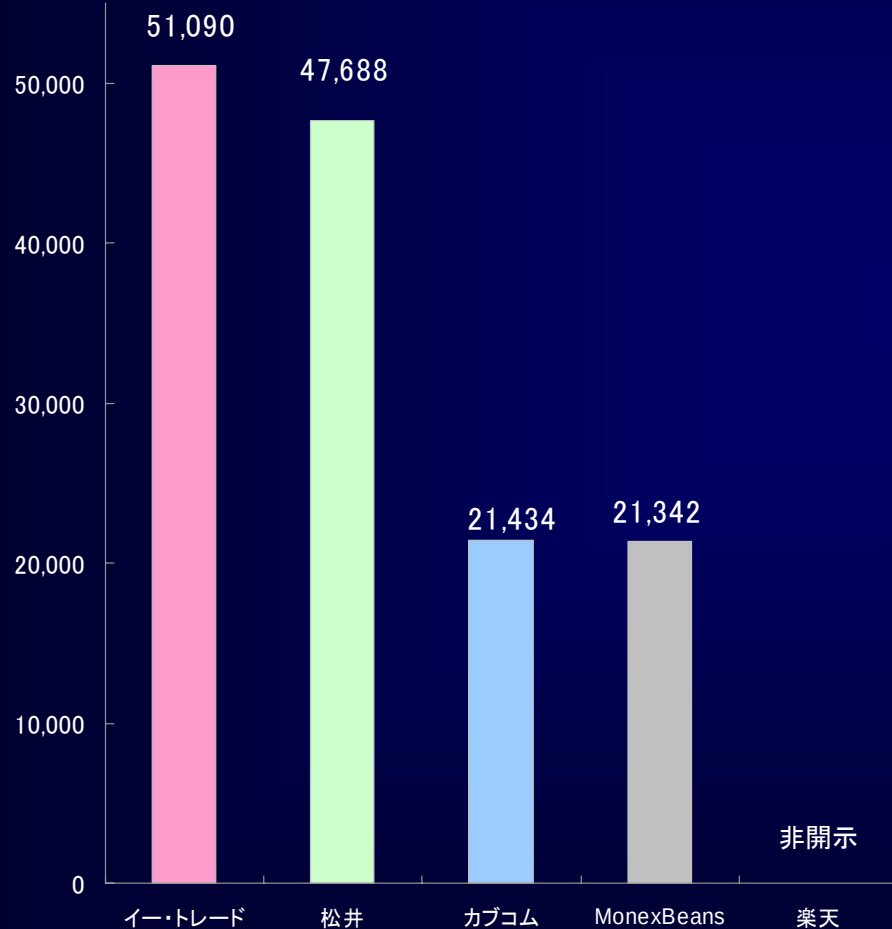
イー・トレード証券②

主要オンライン証券会社との信用口座数比較

主要オンライン証券5社の信用口座数

(信用口座数)

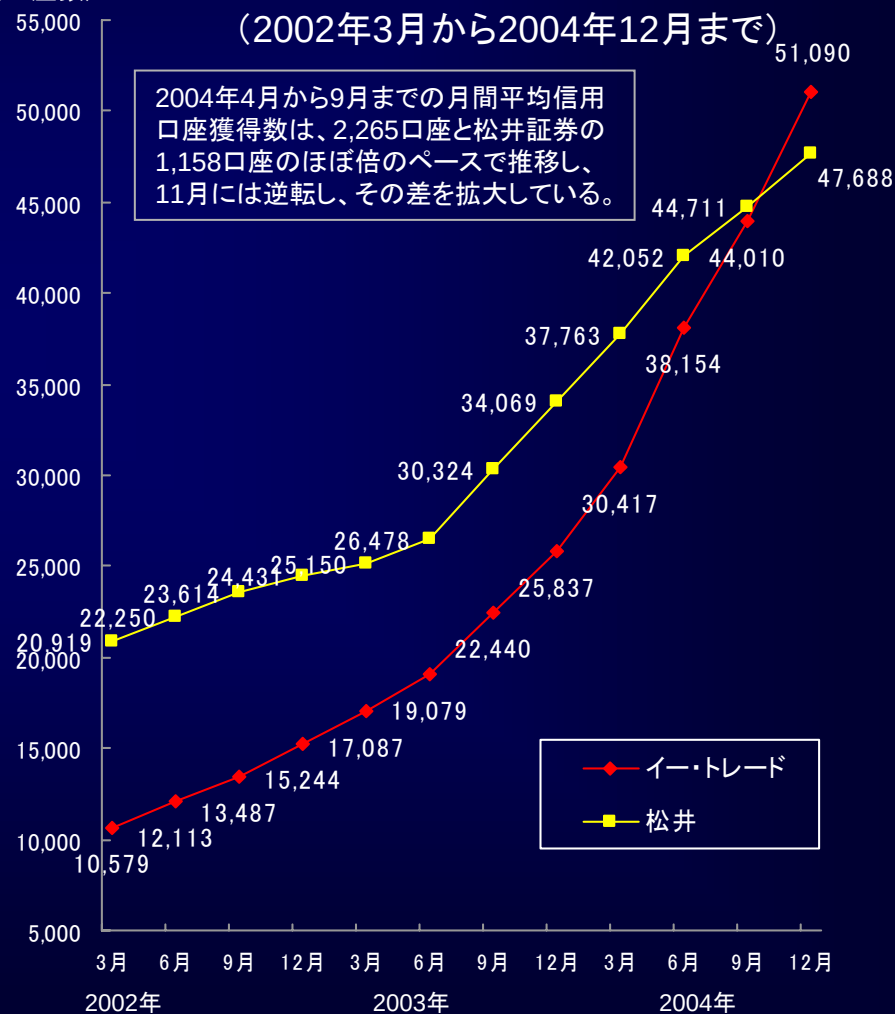
(2004年12月末現在)



松井証券との信用口座数比較

(2002年3月から2004年12月まで)

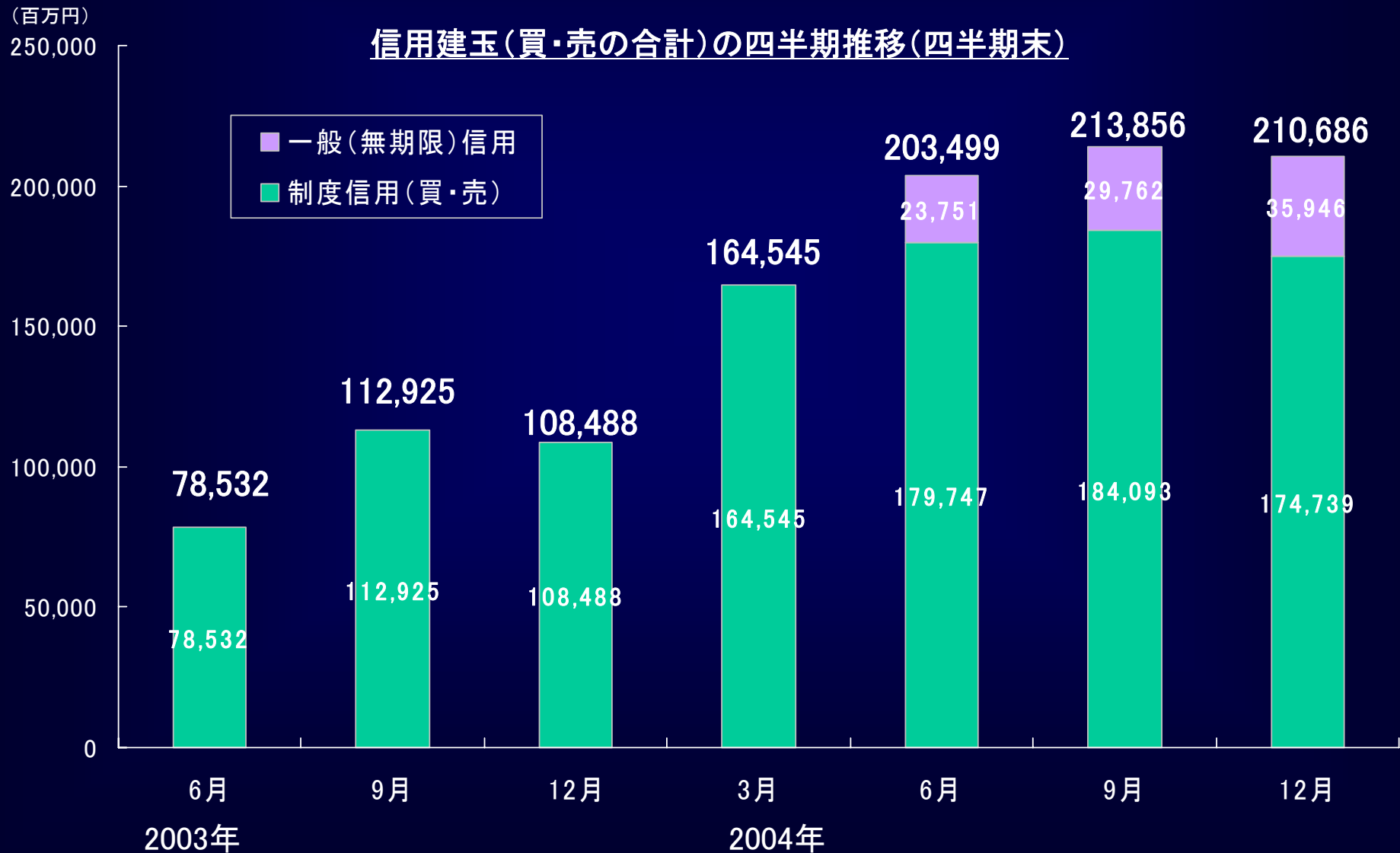
(信用口座数)



※ホームページ等公表資料より当社にて集計

②－(i)

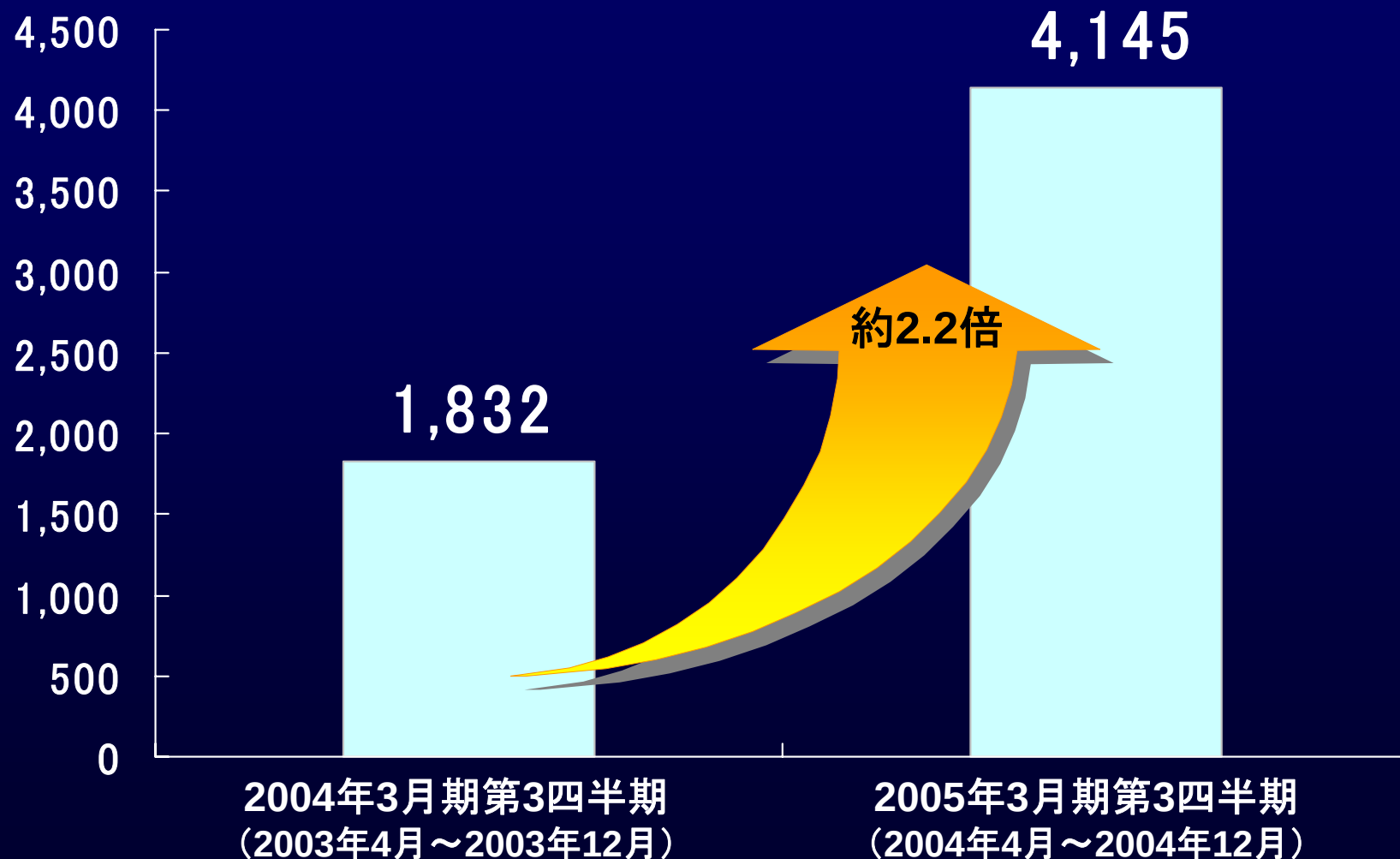
信用建玉の推移



②—(ii)

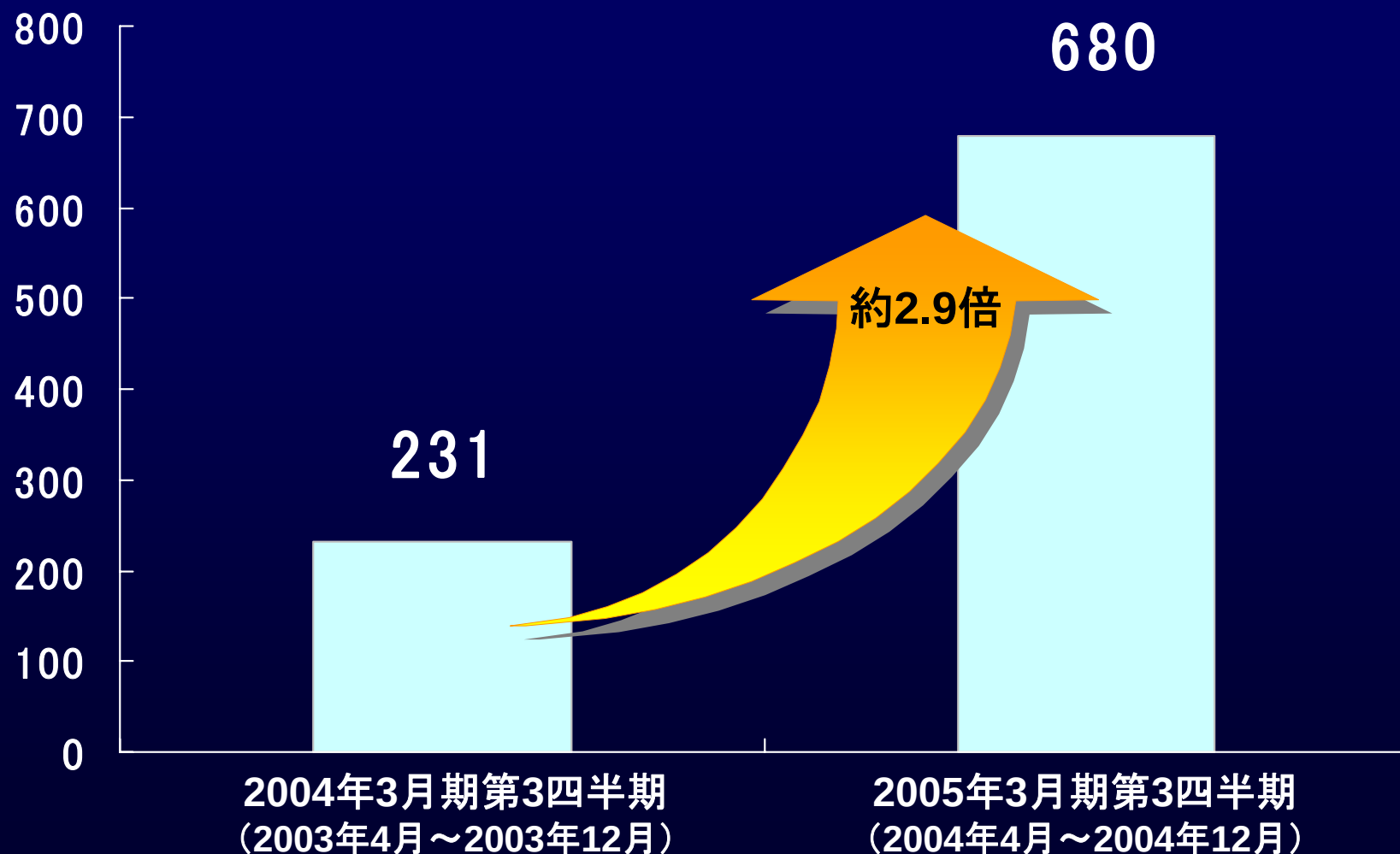
金融収益の推移

(百万円)



引受・募集・売出手数料の推移

(百万円)



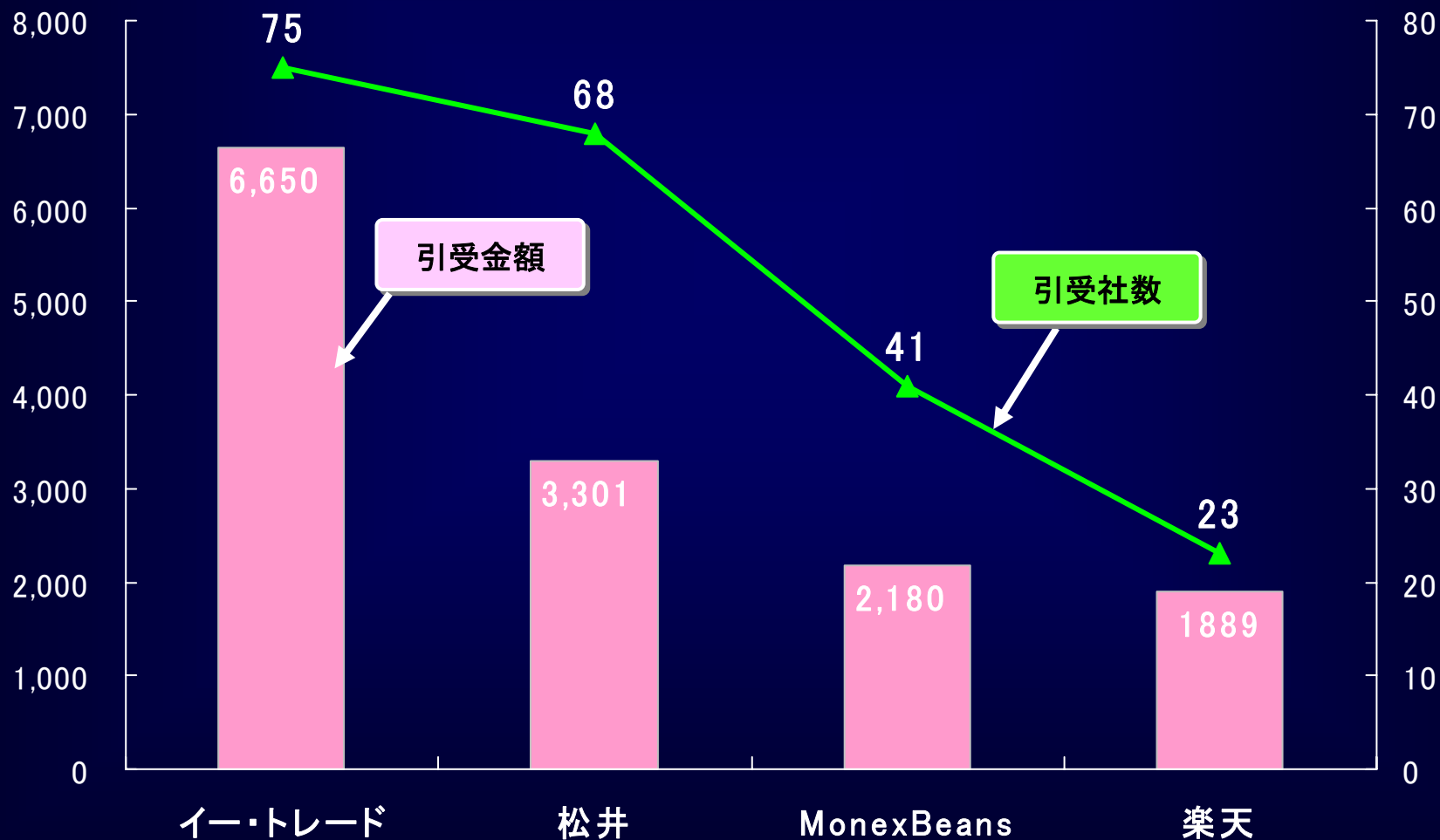
③－(i)

主要オンライン証券4社の引受実績

2005年3月期(2004年4月～12月)における
引受実績比較(業者委託除く、上場日基準)

(引受金額、百万円)

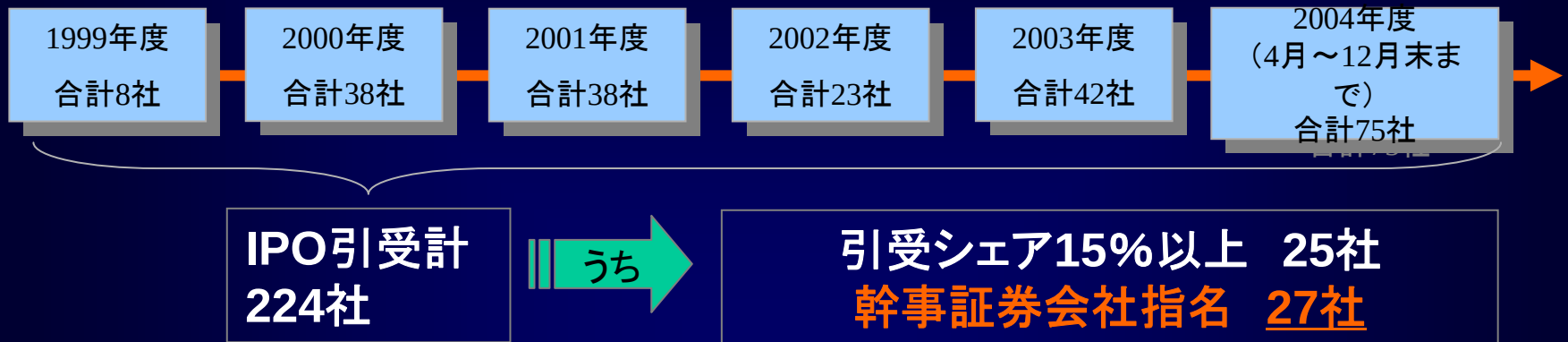
(引受社数)



出所：発表資料より当社算出

③ー(ii) IPO引受実績

新規公開株式引受実績



2004年における幹事入り企業

上場日	会社名	市場	主幹事	幹事比率 (%)	引受比率 (%)
5/26	レカム	ヘラクレス	HS	20	17
5/27	ディップ	マザーズ	UFJつばさ	20	12
6/18	ランシステム	JQ	UFJつばさ	10	10
7/15	船井財産コンサルタンツ	マザーズ	新光	10	10
10/5	ベリトランス	ヘラクレス	HS	20	20
11/25	かわでん	JQ	日興シティ	30	30

※ 委託販売、不動産投信を除く

2004年1月～12月の期間で、主要オンライン証券4社中引受シェア15%以上の実績を持つのはイー・トレード証券(引受実績4社)のみ。

ワールド日栄フロンティア証券 個別業績

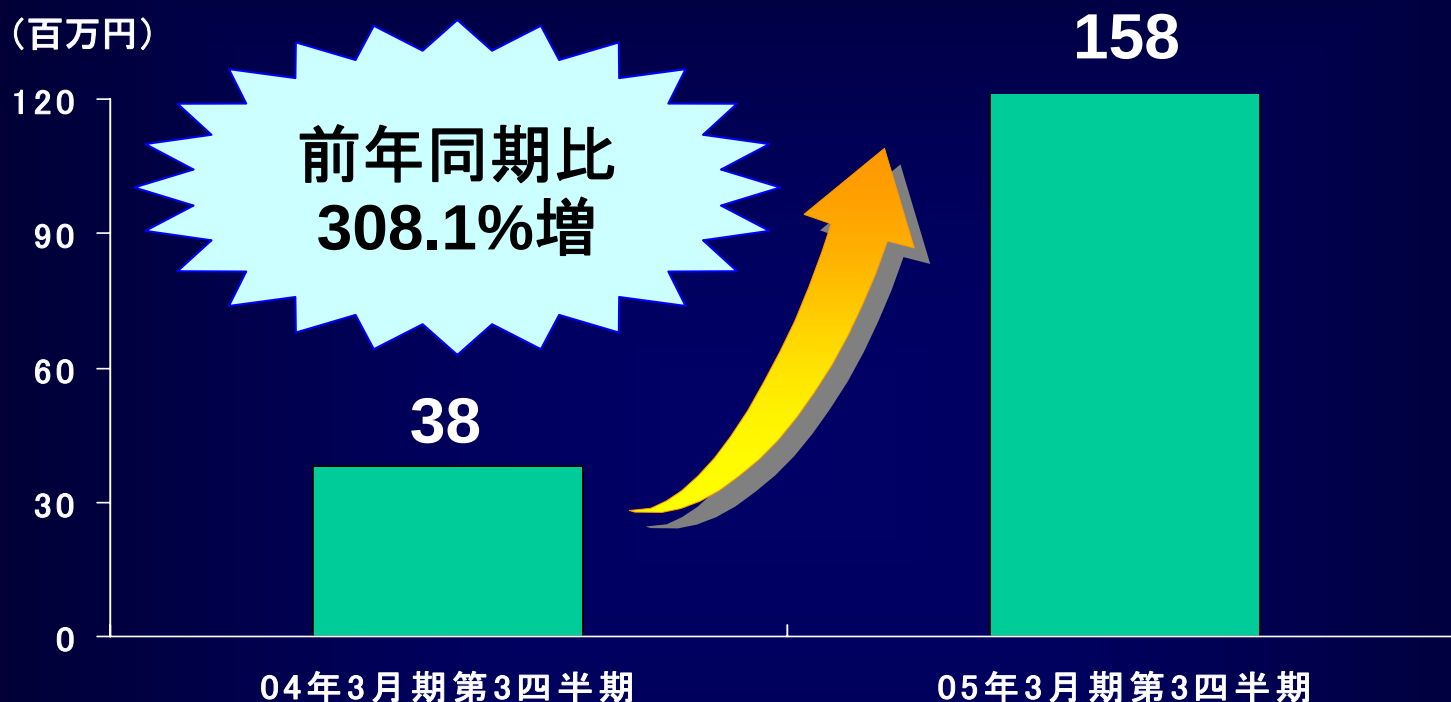
(単位:百万円)

	2004年3月期 第3四半期 (2003年4月～12月)	2005年3月期 第3四半期 (2004年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	8, 229	8, 221	△0.1
営業利益	2, 377	2, 185	△8.1
経常利益	2, 412	2, 371	△1.7
当期純利益	1, 536	2, 643	+72.1

※ 2004年3月期につきましてはワールド日栄証券の業績を記載しております。

ワールド日栄フロンティア証券①

グループシナジー効果による株式引受・売出手数料の増加



	株式 引受件数
IPO	6
公募・売出し	1
合計	7



	株式 引受件数	内、SBI投資先
IPO	16	8
公募・売出し	4	1
合計	20	9

①ー(i)

グループネットワークによる引受業務

IPO・公募等の引受シェア
獲得を可能にする一貫体制



ワールド日栄フロンティア証券



E*トレード証券

ソフトバンク・インベストメント



ファンド出資先企業
350社超

引受

募集・販売



新規公開株
公募・売出し



個人投資家

当第3四半期におけるソフトバンク・インベストメントのファンド出資先IPO・公募銘柄の当社引受実績

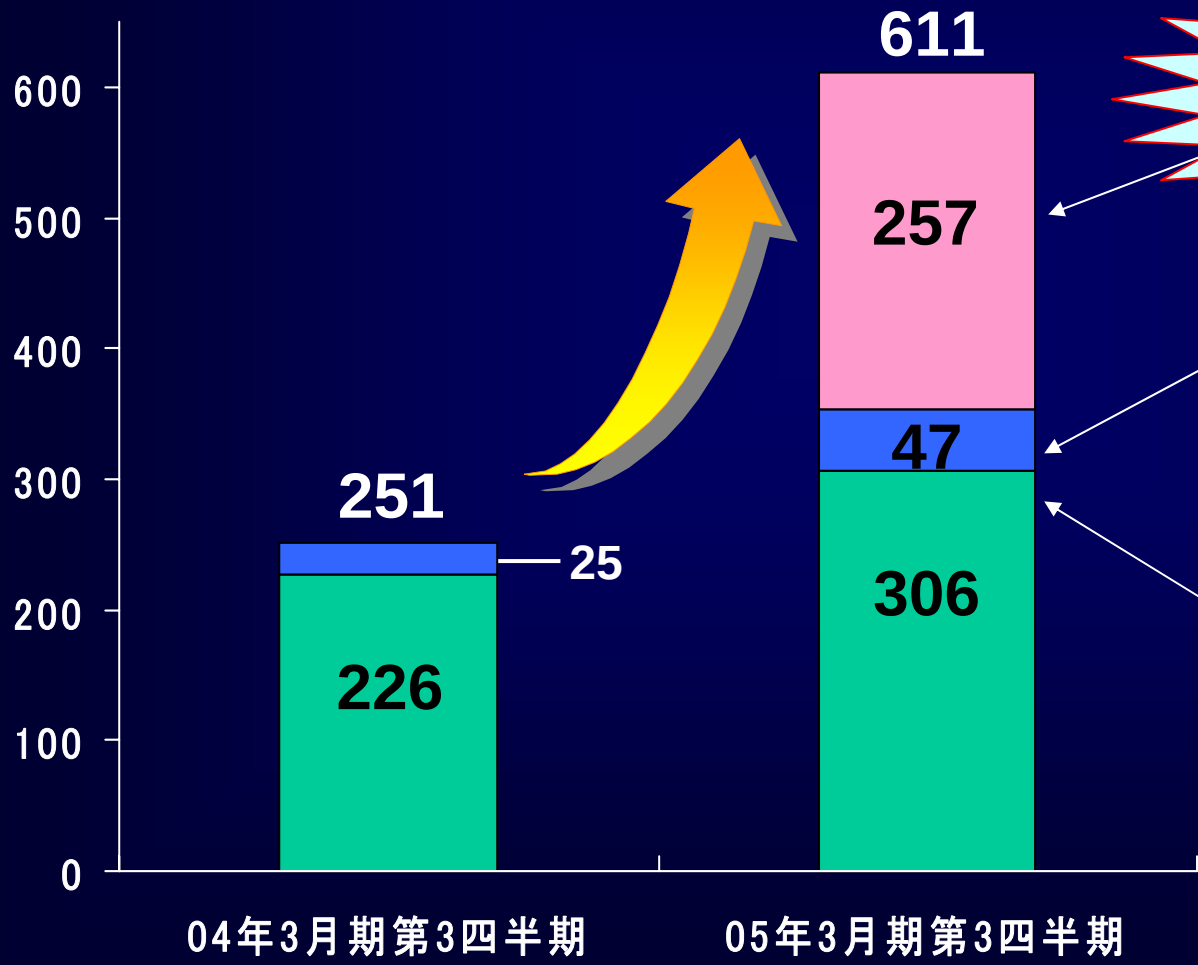
投資先企業名	公開日・発行日	引受比率(%)
(株)フレームワークス	6月4日	2
(株)アマナ	7月1日	2
(株)ネットプライス	7月8日	3
(株)船井財産コンサルタンツ	7月15日	1
(株)そーせい	7月29日	0.5
ファイナンス・オール(株)	8月11日	15
ニッシン債権回収(株)	9月16日	1
ベリトランス(株)	10月5日	15
(株)かわでん	11月25日	12

ワールド日栄フロンティア証券②

グループシナジー効果によるその他の受入手数料の増加

(百万円)

前年同期比143.3%増

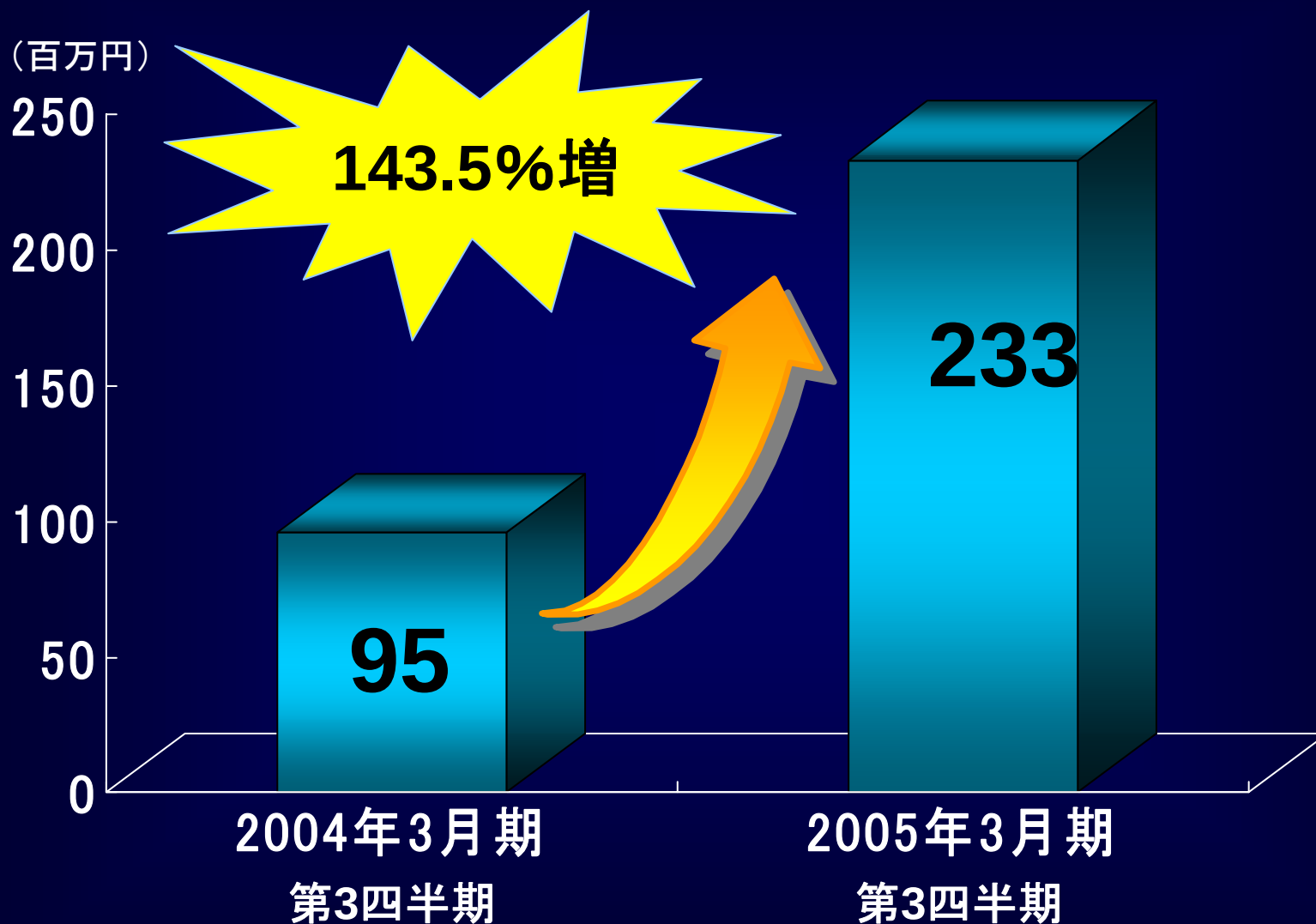


New!
SBI BBファンド
契約媒介手数料

その他手数料

収益証券信託報酬
↓
着実に増加
(前年同期比35.4%増)

金融収支の改善



金融収支＝金融収益－金融費用

ワールド日栄フロンティア証券④

自己融資の拡大とスプレッドの向上

2005年3月期 第3四半期

- 信用取引貸付金
- 信用取引借入金
(証券金融会社からの制度借入)

(単位: 億円)

(金額は期中平均残高)

2004年3月期 第3四半期



自己資本の拡充、投資有価証券の売却などにより増加したキャッシュを、より収益性の高い、信用取引の自己融資へ充当

貸付スプレッドの向上!

ワールド日栄フロンティア証券における 記念配当の実施について

平成17年2月14日をもって設立60周年を迎えることを記念し
6月下旬開催予定の定時株主総会に1株につき5円の
記念配当の実施を付議することを決議

普通配当については期末後に配当性向20%程度を目処に決定する予定

イー・コモディティの状況①

イー・コモディティ(株)ー資本金1,434百万円 事業概要:オンライン商品先物取引
(2000年10月13日設立) (業界唯一のネット専業会社)

商品先物業界への他業種からの参入

商品先物への他業界からの参入例	
【2000年】	
イー・コモディティ	ソフトバンクグループ、ネット専業
【2001年】	
大塚証券	証券界から参入
日本電子証券	証券界から参入
【2003年】	
ソシエテ・ジェネラル証券	仏金融大手グループ
MMGアローズ	旧フジチューにMMGが資本参加
【2004年】	
日興ビーンズ証券	日興コーディアルグループ、ネット専業
パンタ・レイ証券	証券界から参入
【2005年】	
センチュリー証券	日本ユニコム子会社
ドットコモディティ	楽天、松井証券などが出資

(出所:2005年1月14日日経金融新聞)

イー・コモディティの状況②

インターネット取引手数料比較

イー・コモディティが取扱う上場商品について各社の最低手数料(往復)を比較

524円	イー・コモディティ
735円～840円	2社
840円～945円	8社
945円～1,050円	9社
1,050円以上	4社

(当社調べ)

オンライントレードサイト比較

Gomez社の「商品先物サイトレーティング」で総合1位を獲得

商品先物サイトレーティング [2002年夏期]

総合得点

Gomez商品先物サイトレーティングの総合得点による順位は以下のとおりです。このランキングは、2002年8月23日時点でのサービスを基に評価をしています。



会社名	レーティング	詳細 Webサイト
イー・コモディティ	★★★★☆	詳細 Webサイト
フジフューチャーズ	★★★★☆	詳細 Webサイト
日本ユニコム	★★★★☆	詳細 Webサイト
岡藤商事	★★★★☆	詳細 Webサイト
三菱商事フューチャーズ	★★★★☆	詳細 Webサイト
スターフューチャーズ証券	★★★★☆	詳細 Webサイト
エース交易	★★★★☆	詳細 Webサイト
三井物産フューチャーズ	★★★★☆	詳細 Webサイト

カテゴリー別レーティング

> 総合得点

- > 機能性・使いやすさ
- > 安定性と信頼感
- > 情報量とコンテンツ
- > サービスのきめこまかさ
- > 経費用

Factual Futures商品先物オンライントレード
「一目瞭然」31社総合レーティング & ランキング1位獲得

31社総合レーティング & ランキング 【2005/01/06更新】

※2004/10/4-10/18実施「取引サービスアンケート調査結果」を反映しました。
※取引会社名をクリックすると各社サービス詳細が見れます。

RANK	取引員名	名称	評価点	
1	イー・コモディティ	-	91	建落ダブル注文、レートストリーミング
1	フジF	Venus	91	損切り無料手数料、V-Order、またモ
3	ハーベストF	Harbest Online	84	オーバーナイト手数料、イフダン・新規
4	グローバル	My Way	83	最多取扱い銘柄、また多彩な注文関
5	三井物産F	MEFオンライントレード	81	独自の手数料体系・注文画面の充実

>> 全31社最新レーティング & ランキングはこちらから

(3) ファイナンシャル・サービス事業

ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

① ファイナンス・オールの連結業績が伸長

(1)「グッドローン(株)」から「グッド住宅ローン(株)」へ商号変更を行い、住宅金融公庫との提携により住宅ローン事業を強化。

(2005年1月実行金利で全190金融機関中最低金利 2.23%)

(2)マーケットプレイス事業における非金融分野を強化し、同分野の売上高は前年同期売上高29百万円から58百万円へ前期比100%増加。

② 消費者金融業務での新サービスの開始

イコール・クレジット(株)によるネット上で完結できる消費者ローン事業を開始し、消費者ローン債権証券化プログラムについてS&P社よりBBBの格付けを取得。

2004年11月17日の受付開始以降、2005年1月21日までの短期間で貸出件数 2,883件、貸付残高は1月末までに10億円に達する見込み。

③ 債権回収業務での新会社設立

(株)クレディア(東証1部)と債権回収事業における合併会社を設立する事に合意。

ファイナンス・オール 連結業績

(単位:百万円)

	2004年9月期 第1四半期 (2003年10月～12月)	2005年9月期 第1四半期 (2004年10月～12月)	前年同期比 増減率(%)	2005年9月期 通期業績予想
売 上 高	2, 611	2, 788	+6.8	12, 000
営業利益	147	354	+140.8	—
経常利益	142	353	+148.7	1, 800
当期純利益	70	453	+543.0	1, 200

※ 2004年9月期第1四半期の業績はSBI連結業績には含まれておりません。

「グッドローン」から「グッド住宅ローン」への商号変更



「グッドローン株式会社」から「グッド住宅ローン株式会社」へ
商号変更（平成17年1月1日付）

サービスブランドである「グッド住宅ローン」と商号を統一し、
同一ブランドでの事業展開を促進。「グッド住宅ローン」ブラン
ドのさらなる発展、認知度の浸透を図る。

グッド住宅ローンと住宅金融公庫との提携

平成16年12月1日より、住宅金融公庫の新型ローン「フラット35」の取扱いを開始

最長35年固定金利 全金融機関の中で最低金利2.23%でスタート

平成17年1月実行金利においても、全190の金融機関の中で最低金利を提供

同時に「グッド公庫ローン α 」をスタート。
住宅取得必要資金の100%までの融資が可能。



金融機関	金利(%)
グッド住宅ローン	2.23

都市銀行

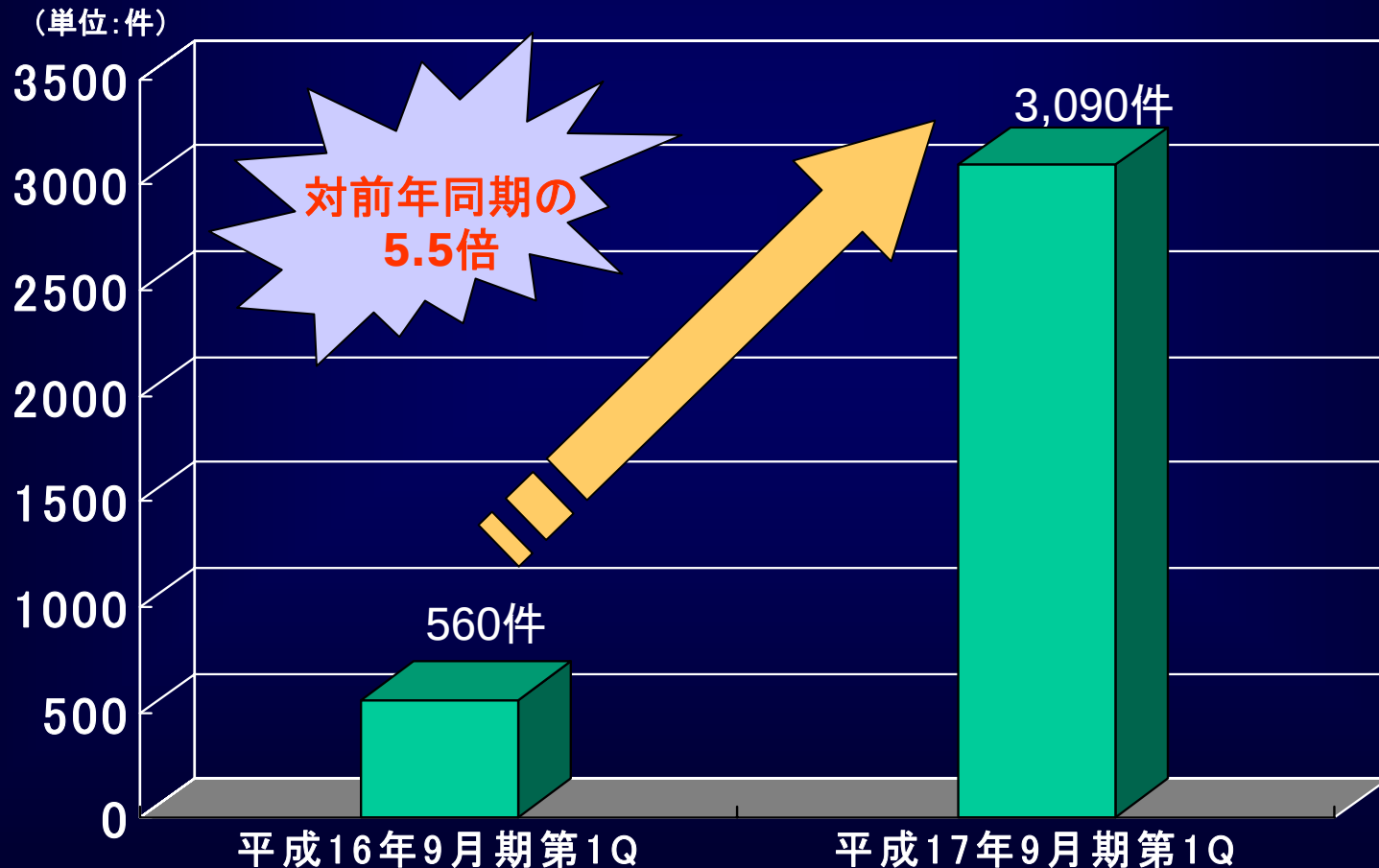
みずほ銀行	2.66
東京三菱銀行	2.66
UFJ銀行	2.72
三井住友銀行	2.95

平成17年1月実行金利。金融機関ごとに異なる手数料が発生する。グッド住宅ローンは融資実行時に事務手数料が実行金額に対し2.1%が必要。手数料を含めた実質金利は、借入金額の上限金額5,000万円を35年借り入れた場合で2.341%。

グッド公庫ローンの本格展開

グッド公庫ローンの受付開始(12月1日スタート)により、グッド住宅ローン
第1四半期の借入相談(※)件数が急増

(※)借入相談:グッド住宅ローンのホームページ上から、ユーザーが個人情報、物件情報を登録し、本審査の前に審査要件に適合するかを確認する手続き。



マーケットプレイス事業の非金融分野強化

チケット流通センター

ウェブサイトリニューアル、ユーザー登録機能の追加などユーザビリティの向上

ピアノ買取センター

ウェブサイトリニューアル、テスト運営終了し、提携会社への課金開始

引越達人セレクト

提携会社に対し従量課金スタート

化け犬.jp

グループ初となるコミュニティサイト、独身女性向けブログポータルサイトの立ち上げ

【非金融分野の売上推移】

前年同期売上高
(平成15年10月～12月)
29百万円(※)

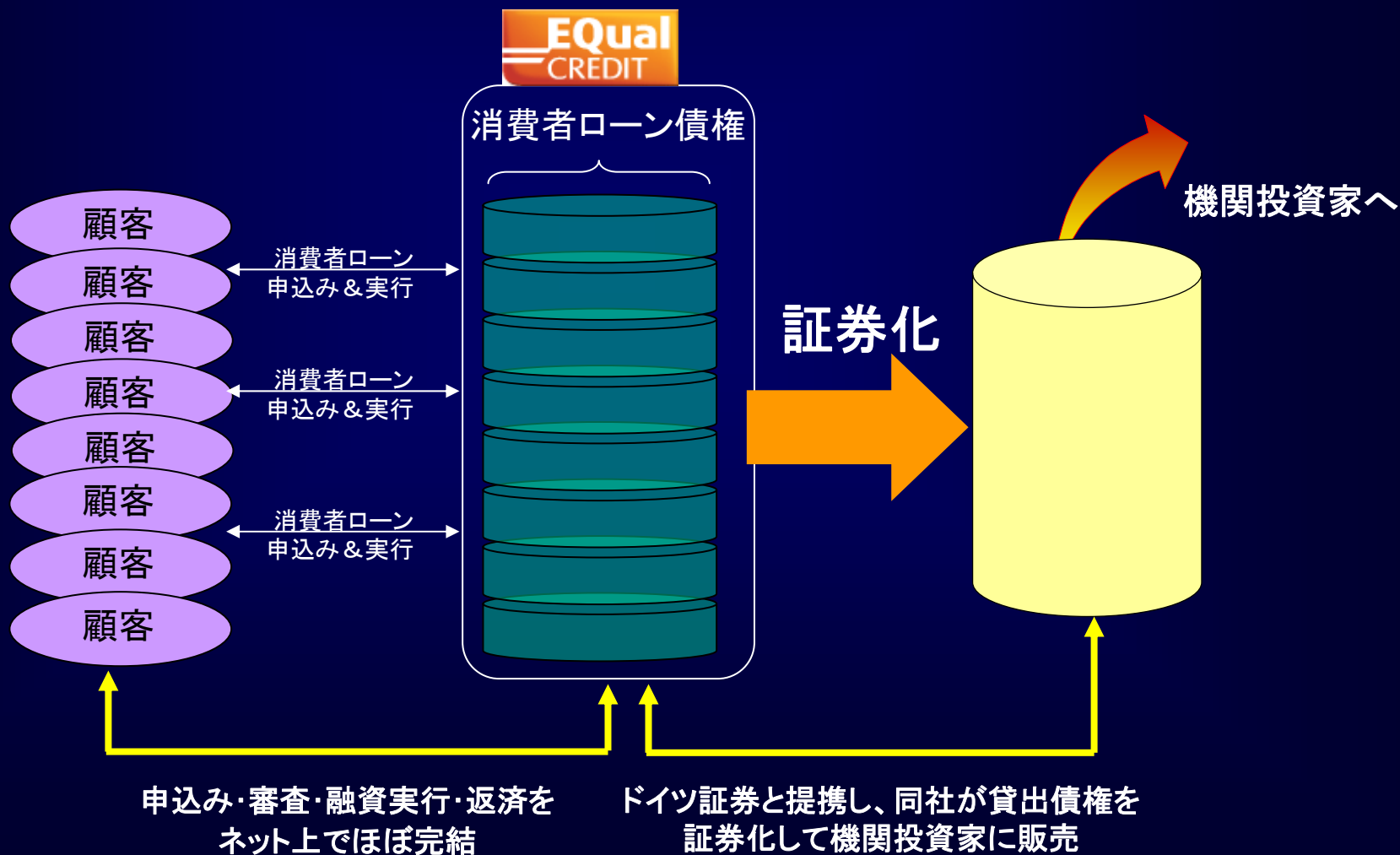
100%増

平成17年9月期第1Q
売上高 58百万円

(※) 買収前のインターアイの売上高

イコール・クレジットの営業開始について

融資の申込みから返済までの手続きの大半をインターネット上で完結させる初の仕組みを構築



イコール・クレジットの貸出実績推移

貸付残高は当初計画を上回る好スタート

(単位:百万円)

7,000

6,000

5,000

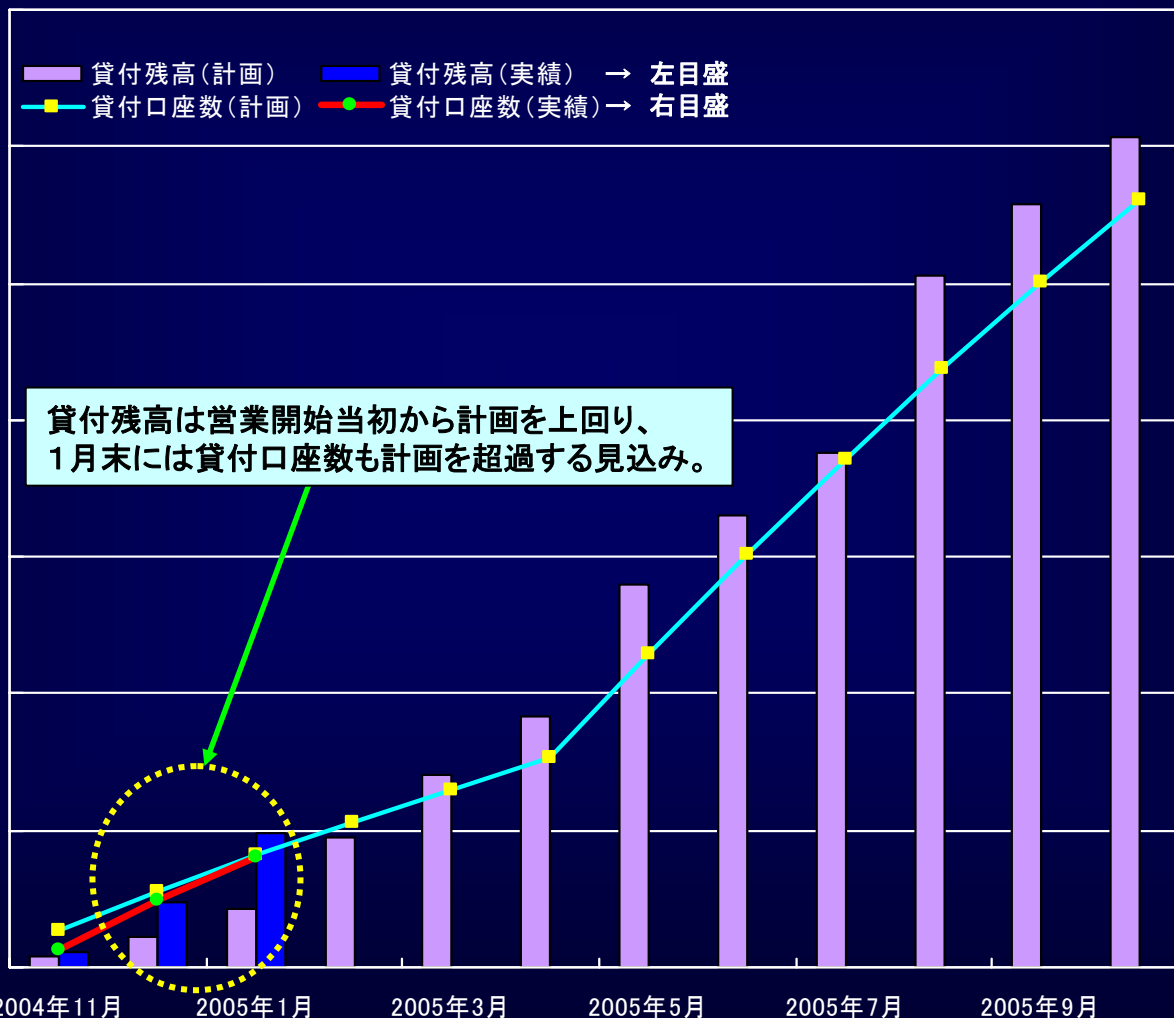
4,000

3,000

2,000

1,000

0



(単位:件)

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

※2005年1月は1月21日までの実績数値です。

サービサー関連事業への進出

企業再生ビジネスの
ノウハウ



(株)クレディア

債権回収ノウハウ

地銀ネットワーク

多種多様な顧客基盤

債権買取
回収受託

60%

40%

債権買取
回収受託

エスビーアイ債権回収サービス(株)

設立年月日:平成17年1月25日

資本金 :5億円

総合サービサー

特定金銭債権の管理回収、不良債権(事業再生)ビジネス、その他関連事業

モーニングスター 連結業績

(単位: 百万円)

	2003年12月期 (2003年1月～12月)	2004年12月期 (2004年1月～12月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	924	1,015	+9.8
営業利益	115	171	+47.8
経常利益	136	174	+28.3
当期純利益	69	106	+53.7

※SBI連結業績への加算は2004年10月以降となります。

3. 今期の事業展開

(1) アセットマネジメント事業

- ①ブロードバンドファンドの募集状況
- ②不動産ファンドの募集開始
- ③グループ証券会社専用投資信託の設定

①ブロードバンド・ファンドの募集状況

募集目標
500億円



募集期間
2005年4月末まで

個人投資家より
200億円超の資金調達予定

(営業者)

SBIブロードバンドキャピタル
株式会社(完全子会社)

SBIブロードバンドキャピタル
投資事業匿名組合1～3号

事業法人または金融法人より
300億円超の資金調達予定

(無限責任組合員)

SBIベンチャーズ株式会社
(完全子会社)

SBIブロードバンドファンド
投資事業有限責任組合

(販売証券会社)

E*トレード証券



ワールド日栄フロンティア証券



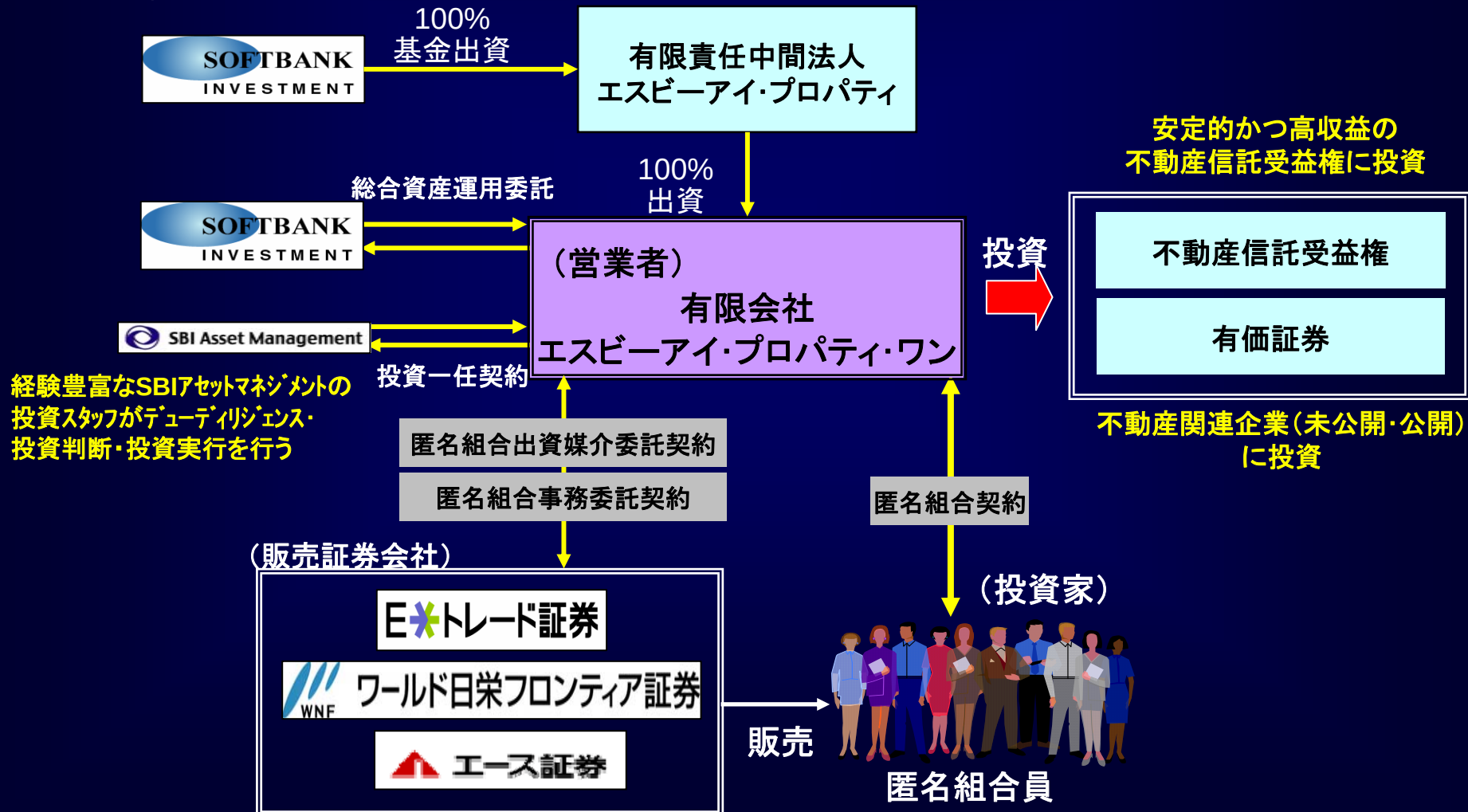
エース証券

約定済みおよび予約分を含めた募集金額は既に約300億円

②不動産ファンドの募集開始

「四半期分配型SBI不動産関連投資事業匿名組合」の募集開始

<スキーム図>



③グループ専用投資信託の設定

中小型成長株ファンド ーネクストジャパンー (愛称:jnext)

平成17年1月4日より販売開始

運用・設定



投資助言

エンジェルジャパン
アセットマネジメント(株)

代表取締役・宇佐美博高氏が
投資助言

受託会社

三井アセット信託銀行

jnext

販売会社

WNF ワールド日栄フロンティア証券



個人投資家



(2)証券関連事業

証券関連分野の新しい取り組み

① リテール顧客基盤の更なる拡大に向けた施策

- (i) 証券仲介業制度の活用による新しい投資家層の獲得
- (ii) リアルタイムストリーミングツールの提供によるアクティブ顧客の獲得
- (iii) キャッシュカードの発行及びIYバンクとのATM提携
- (iv) 中国株取引の開始
- (v) 為替保証金取引の多通貨対応
- (vi) 個人型確定拠出年金への参入

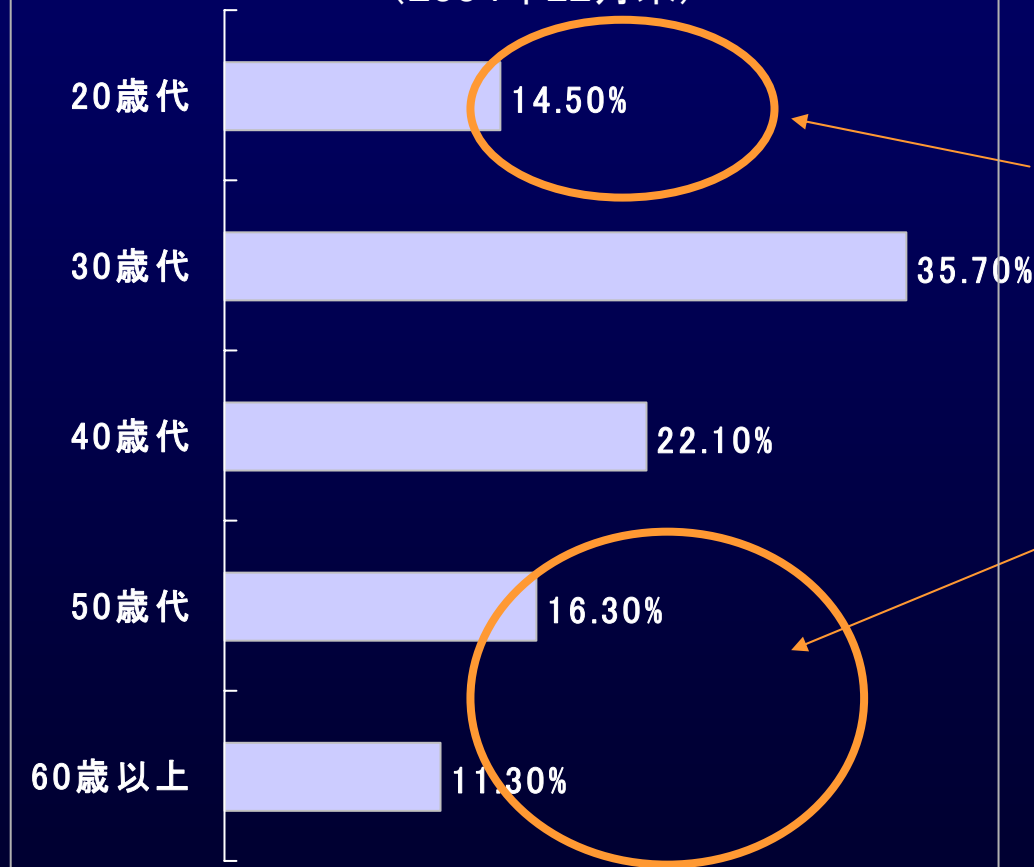
② コーポレートビジネスの拡大に向けた取り組み

- (i) 主幹事業への参入に向けて、審査部門を強化
- (ii) 地方銀行との連携により、IPO候補先の発掘を拡大
- (iii) 機関投資家向け営業拡充のためフィデス証券を合併

①—(i)証券仲介業制度を活用し新しい顧客層を獲得

E*トレード証券

顧客の年代別属性
(2004年12月末)



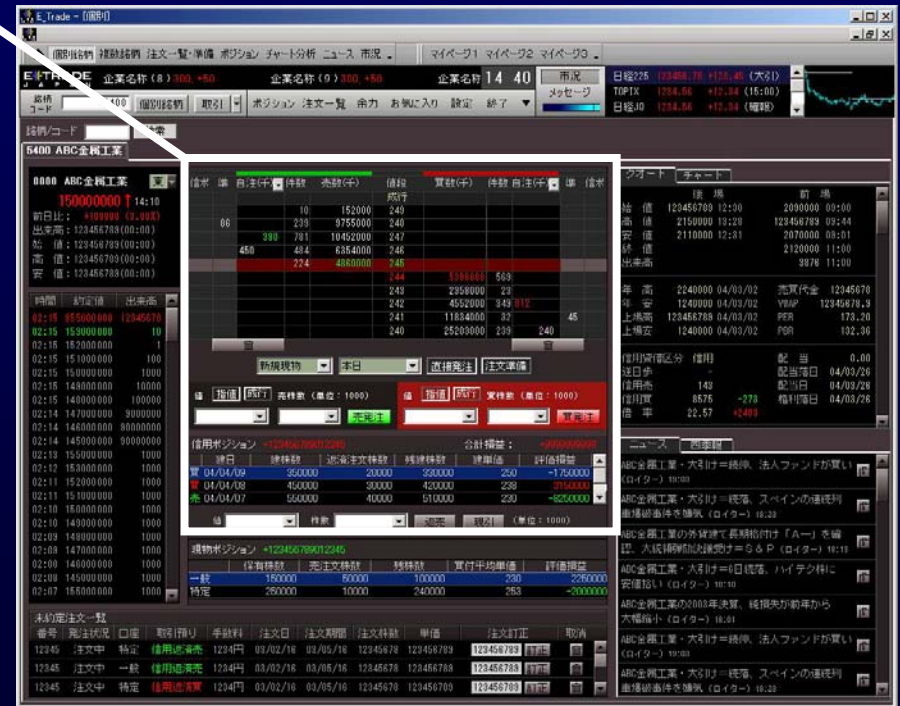
仲介業者のネットワークを活用し、当社単独では、獲得できなかった顧客基盤の拡充を目指す。

会員組織を有する事業法人
ネクシィーズ、ネクサス
その他

①ー(ii)リアルタイムトレーディングツールの開始



アクティブに取引する投資家向けのトレーディングツールを自社開発。自社アクティブ投資家の囲い込みと他社アクティブ投資家の取り込みを図る。



オンライン専業証券初！

板情報を見ながら気配値にマウス操作のみで発注できる機能を搭載。

①-(iii)アイワイバンク銀行との提携

証券総合口座が投資口座から生活口座としての利用に用途拡大

本年7月を目処にセブンイレブンやイトーヨーカドー
に設置されたアイワイバンク銀行のATMを通じて、
イー・トレード証券の証券総合口座から24時間 365
日いつでも現金の入出金が可能に！



証券総合口座の入金・出金機能
クレジットカード機能付ATMカードも予定



CARDTRONICSとの提携によりイー・トレード証券
のユーザーは25,000台のATMにアクセス可能



ATM台数
24都道府県
9,771台

(2004年1月20日現在)

①-(iv) 中国株の取扱い



2003年6月に開始した米国株取引に加え、中国株(2005年3月)の取引を開始予定。

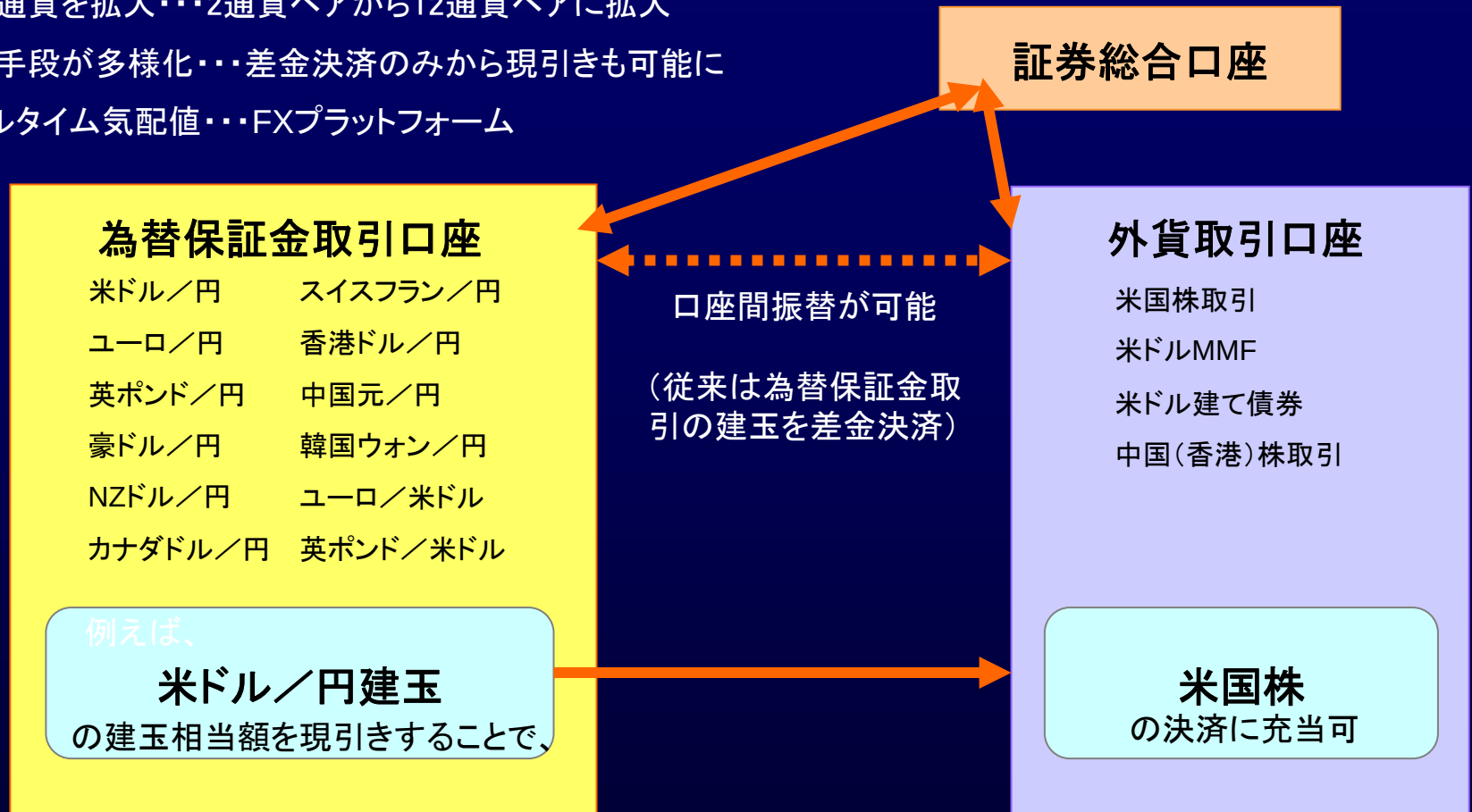
①-(v) 為替保証金取引の多通貨対応

為替保証金取引の追加サービス

取引通貨を拡大・・・2通貨ペアから12通貨ペアに拡大

決済手段が多様化・・・差金決済のみから現引きも可能に

リアルタイム気配値・・・FXプラットフォーム

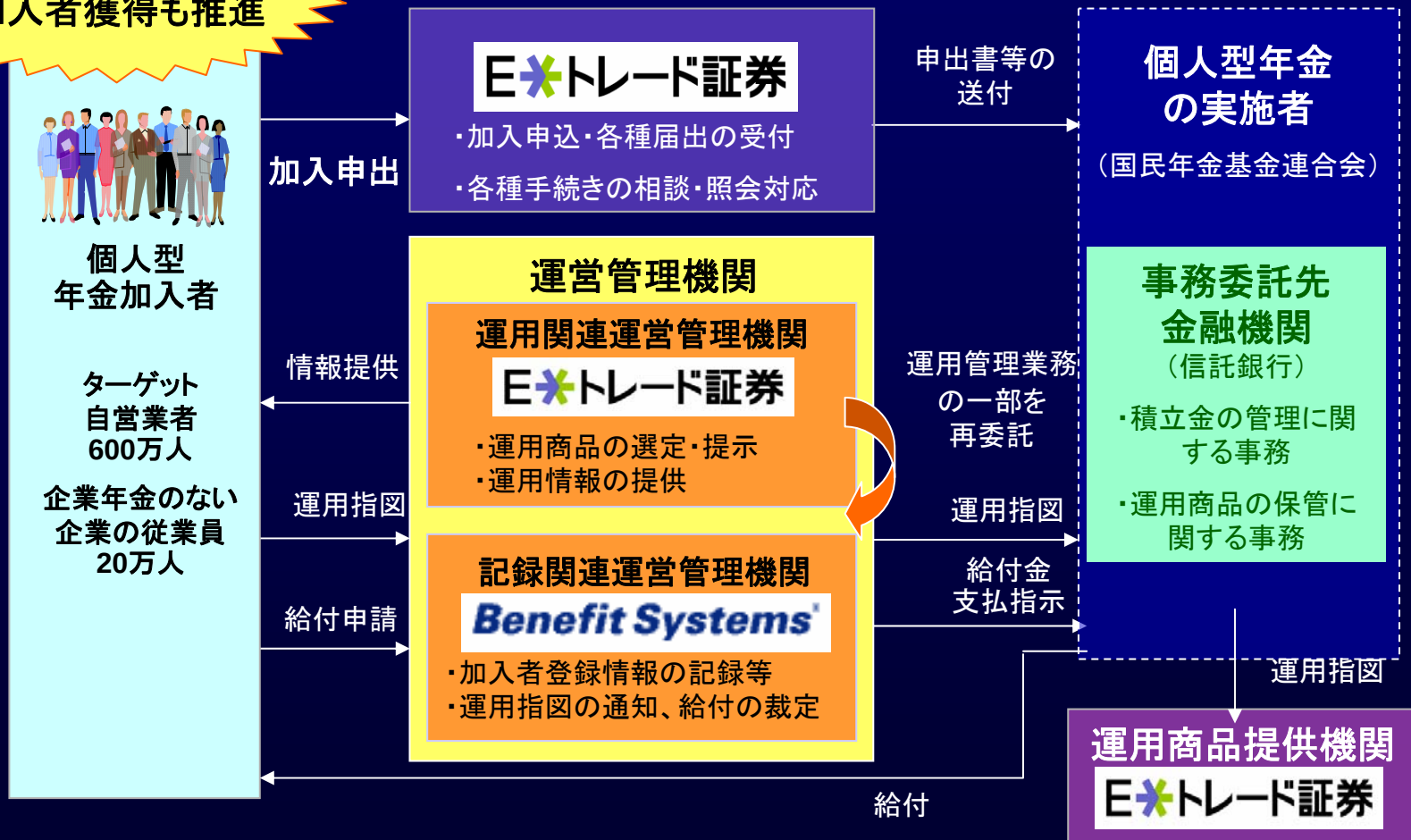


①-(vi) 個人型確定拠出年金の取扱い

運営管理機関の口座管理手数料を無料化[※]し新規参入

(※50万円以上の年金残高がある場合)

証券仲介業を通じた
加入者獲得も推進



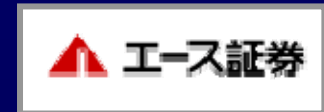
②-(i) 主幹事業務への参入

引受業務における実績の積み重ね

- ・224社[※]の引受実績
- ・ブックビルディングの積み上げ
- ・上場後の豊富な手口
- ・資本市場部の設置
- ・審査部門の強化
(審査部門3名、資本市場部門9名体制)

+

SBIグループの販売力の活用



※ 業者委託、不動産投信を含まず



E*トレード証券

主幹事業務へ進出

+

マーケットメイクへの参入 (2004年10月より開始)

②-(ii) 市場誘導ビジネスにおける地方銀行との連携

地銀との提携を拡大させることで、地方のIPO銘柄の発掘を効率化

市場誘導ビジネス

銀行が発行市場での資金調達を計画する顧客企業を証券会社に紹介し、証券会社が引受手数料の一部を銀行へ支払う業務



2004年11月提携

 **ちば興銀**

千葉興業銀行

本店：千葉県千葉市美浜区

店舗数：71店舗

(千葉県内70店舗、都内1店舗)

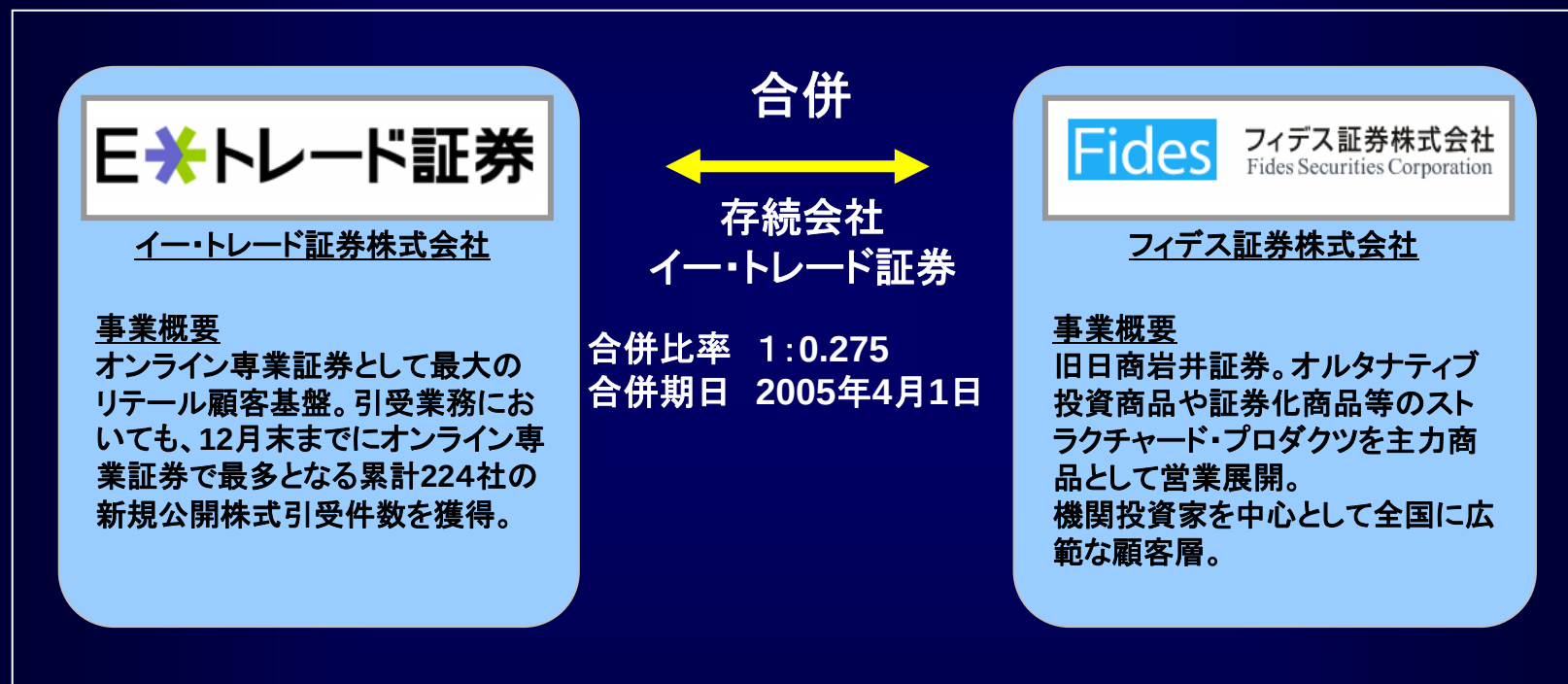
行員数：1,376名(2004年3月末現在)

イー・トレード証券の公開・引受業務において、これまで発掘できなかった地域において株式公開を志向する企業の発掘を拡大。

それぞれの地域に密着した地方銀行との連携を通じて、引受件数の更なる拡大を目指す。

②一(iii)イー・トレード証券とフィデス証券との合併について

引受業務をはじめとする法人ビジネスを更に強化

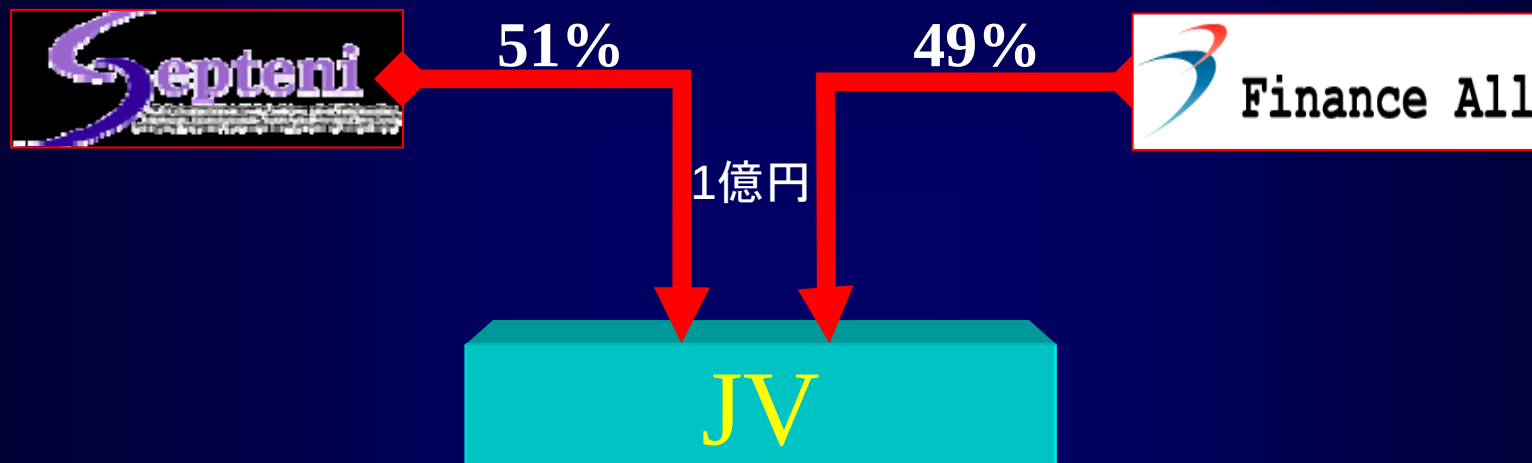


新規上場企業に対して万全の体制でサービスを提供していくためには、機関投資家とのリレーションを確保・維持していく機能も独自に持つ必要がある。合併により、早期に株式引受の主幹事業開始を目指し、人員の確保等社内体制の整備を整えることが可能となる。

(3)ファイナンシャル・サービス事業

金融分野を核としたネット広告代理店事業へ進出

「金融分野に特化したネット広告代理店」の設立



マーケットプレイス参加企業
を中心とした金融機関

金融分野No.1ネット広告代理店へ



SBグループのハウスエージェンシーを目指す

新会社の優位性 ～両社の強みの融合～



- インターネット広告業界有数の営業力
- 1200のクライアントチャンネル
- アフィリエイトなどの独自サービス
- 急拡大する金融分野での実績

- 金融比較サイト最大手としての金融機関チャンネル
- 金融分野におけるインターネットマーケティングノウハウ
- 豊富な金融機関向けソリューション

インターネット金融分野での実績に裏づけされた付加価値の
高いサービスの実現

両社の強みを持ち寄ることでネット広告市場の主戦場である
金融分野でNO. 1を目指す

(4) 配当政策および今期の配当について

配当政策および今期の配当について

(1) 配当政策の変更

株主の皆様に対する安定的かつ適正な利益還元を目指すとともに、内部留保による競争力・収益力の向上に向けた事業投資を積極的に行うことを基本方針として、当期よりグループ企業を含めた連結業績を総合的に勘案したうえで配当を実施することといたします。

(2) 今期の配当

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{一株あたり配当金 350円} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{12月末発行済株数} \\ \text{(自己株式除く)} \\ \text{7,041,981株} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{配当総額} \\ \text{約25億円} \\ \hline \end{array}$$

前期配当金対比(分割考慮後) 約1.36倍

(前期配当金770円÷3=257円)

当期配当総額約25億円は、予想個別当期純利益58億円に対する配当性向は約43%

(5) 直接的社会贡献について

直接的社会貢献

全国の児童社会福祉法人への寄附金贈呈

9政令指定都市、39都道府県から本趣旨に賛同を得て、
各自治体所管の児童養護施設・乳児院等(173施設)
に対して総額**167.1百万円***の寄附金謹呈

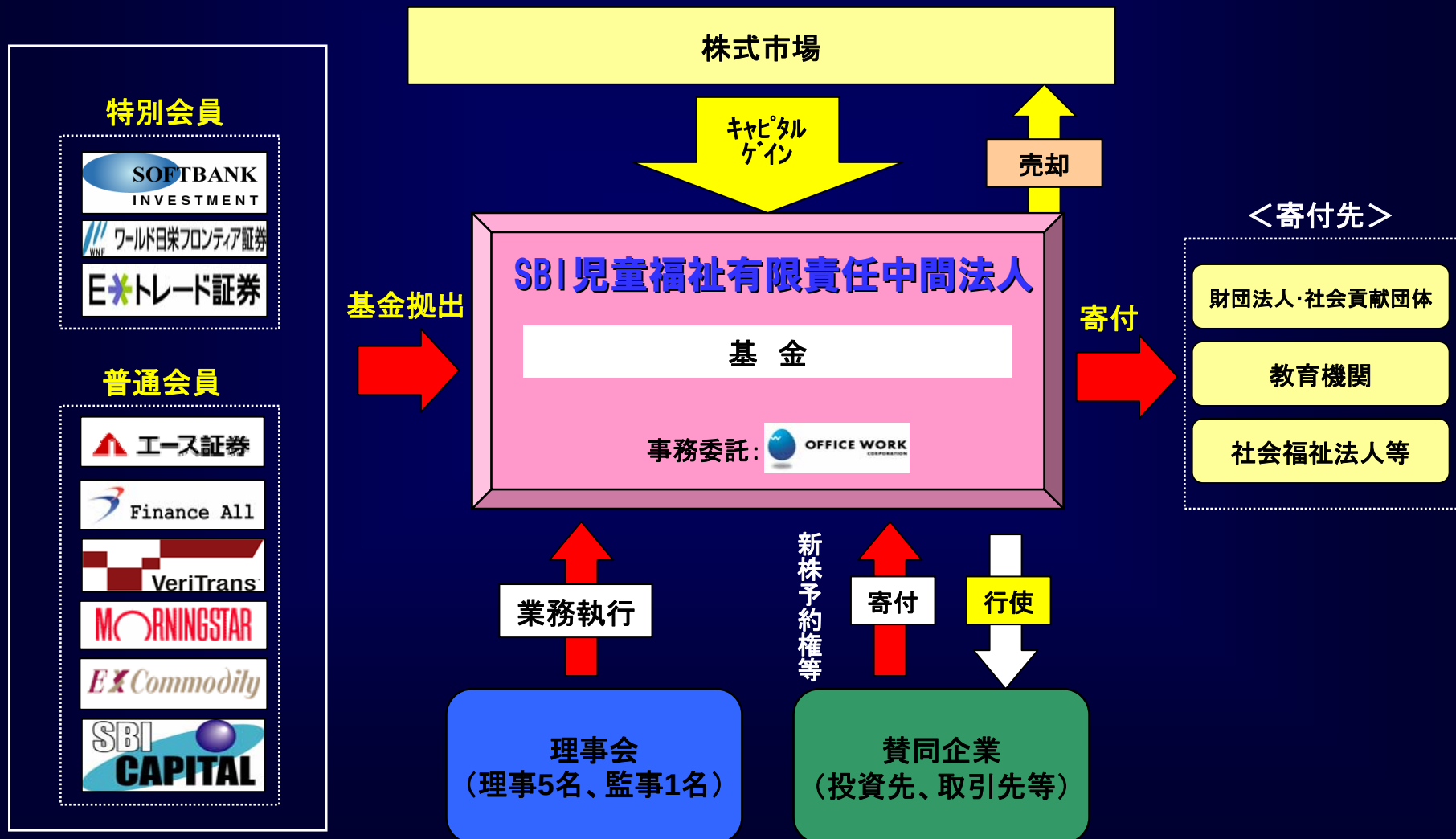
(百万円)

主な寄附金実施先	資金使途	寄附金 実施額
岐阜県 児童養護施設A	焼失した施設の再建費用	20.0
北海道 児童養護施設B	老朽化した暖房・給湯用ボイラー設備の更新費用	15.4
沖縄県 児童養護施設C	送迎用自動車購入費用	2.0
静岡県 乳児院D	乳児の突然死症候群(SIDS)対策用、無呼吸モニター購入費用	1.2

* 税引後利益3億円以上を計上したグループ各社(純粋持株会社のソフトバンク・ファイナンスは除く)が、その利益の1%程度を寄附する方針に基づくもの。(グループ各社における機関決定を前提とする)

SBI児童福祉有限責任中間法人の設立

SBIグループ各社からの寄附金だけでなく、証券市場やストックオプションを活用して幅広く寄付活動を展開するという日本初の試み



(6) 今年のSBIグループの課題

課題1

投資サービス法・金融コングロマリット法などの新法を視野に入れ、証券分野およびアセットマネジメント分野（未公開株・公開株・不動産）におけるSBIグループの戦略を具現化すべく、新組織体制の構築を図る

課題2

当社グループの企業生態系の充実に伴い、
生態系構成会社相互間のより徹底した
シナジーの追求を図る

(シナジー追求の検討中の事例)

- ①イー・トレード証券とスワン・クレジットとの連携
イー・トレードカードの発行
- ②イー・トレード証券とイコール・クレジットとの連携
証券担保金融
- ③イー・トレードポイントを通じたイー・トレード証券とグッドローンとの連携
委託売買手数料割引制度
- ④当社グループ証券会社でのグッド住宅ローンの住宅ローン債権の証券化および
販売
- ⑤グッド住宅ローン利用者に対する各種火災保険商品の提供
- ⑥当社グループ証券でのイコール・クレジットにおける消費者ローン債権の証券化
および販売
- ⑦ワールド日栄フロンティア証券、エース証券の店舗ネットワークの活用
スワンクレジット、グッド住宅ローンのローン窓口の設置

課題3

グローバルな証券ビジネスを具現化する

(グローバル展開の事例)

- ①E * TRADE KOREAの買収
- ②イー・トレード証券とKingsway Groupとの連携
- ③中国投資ファンドの組成スタート
- ④インドでのネット証券業・投資業の検討

課題4

更なるグループ内公開会社の創出

今後の新規公開対象先

イー・コモディティ(株)、ゴメス(株)、グッドローン(株)、SBIキャピタル(株)

公開済のSBI グループ主要子会社株式の含み益

(単位:億円)

	投資額	2004年 3月31日 含み益	2004年 9月30日 含み益	2004年 12月31日 含み益	2005年 1月21日 含み益
イー・トレード証券	111	—	—	1,408	1,666
ワールド日栄 フロンティア証券	87	274	99	120	138
ファイナンス・ オール	112	74	214	251	312
モーニングスター	71	—	▲ 2	▲ 17	▲ 7
合計	381	348	311	1,762	2,109
ベリトランス (FA子会社)	4	—	—	57	69

今後、イー・コモディティ、ゴメス、SBIキャピタル、グッドローンらを加えて、10社以上の公開企業を有する企業集団にする。

課題5

新規分野への参入

①銀行分野

当社グループ各企業との強力なシナジーを生みだす。

- 証券と銀行間での資金移動における手数料無料化の拡大
(イー・トレード証券とスルガ銀行ソフトバンク支店間で実施済み)
- 預金+リスク商品での運用スキームの検討
- リアル&ネット型のプライベートバンキングサービスの提供
- パッケージ商品の開発とクロスセル

(ご参考)2004年12月単月

イー・トレード証券の総入金額 1,321億円

Yahoo!JAPANのオークション総取扱高 580億円 ショッピング総取扱高 78億円

②非金融分野

比較的金融分野に近い不動産分野をはじめ、買収を通じて参入を図る

(ご参考①)スルガ銀行ソフトバンク支店の実績①

イー・トレード証券とのシナジー

E*トレード証券



口座開設者のうち、イー・トレード
証券ユーザーの割合

56.6% (2004年4月～ 9月実績)

(※**38.5%** (過去の累計))

E*トレード証券ユーザー限定の優遇メリット

1. 決済の提携

即時入金サービス(リアルタイムで資金移動可能・振込手数料無料)

2. 双方のユーザー向け特典実施

ATM 引き出し手数料無料

他行宛振込み手数料優遇

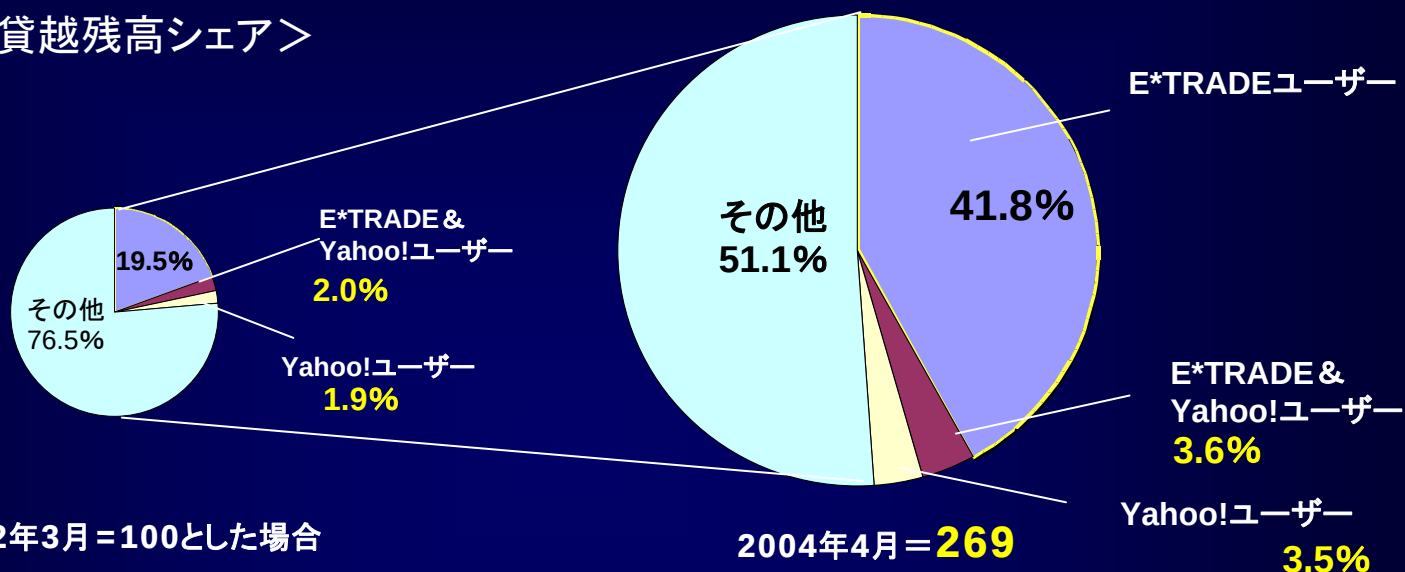
無担保ローン金利1%優遇

小口ローン(30万円以下)審査の簡素化

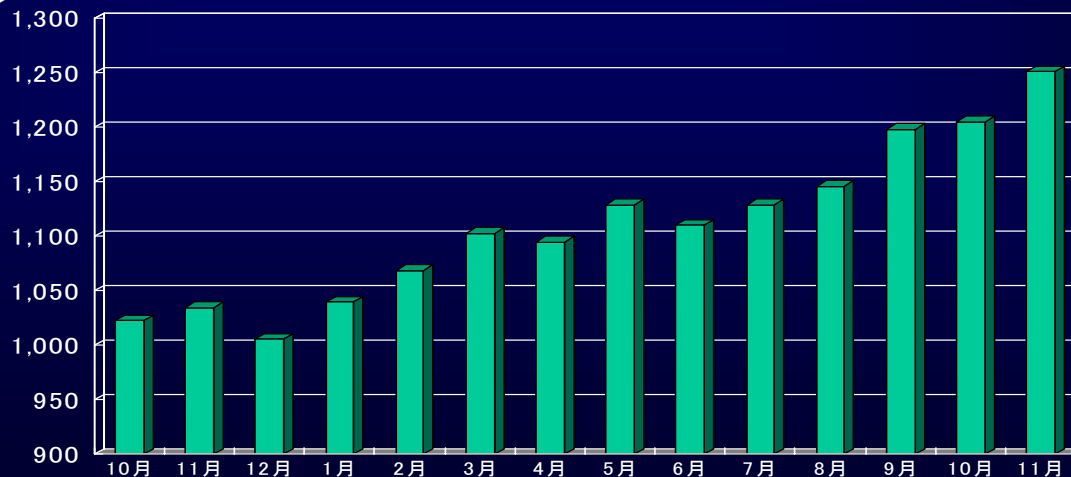
(ご参考②)スルガ銀行ソフトバンク支店の実績②

証券ユーザーはローン取引も活発

＜ユーザー別当座貸越残高シェア＞



＜当座貸越残高推移＞ 百万円

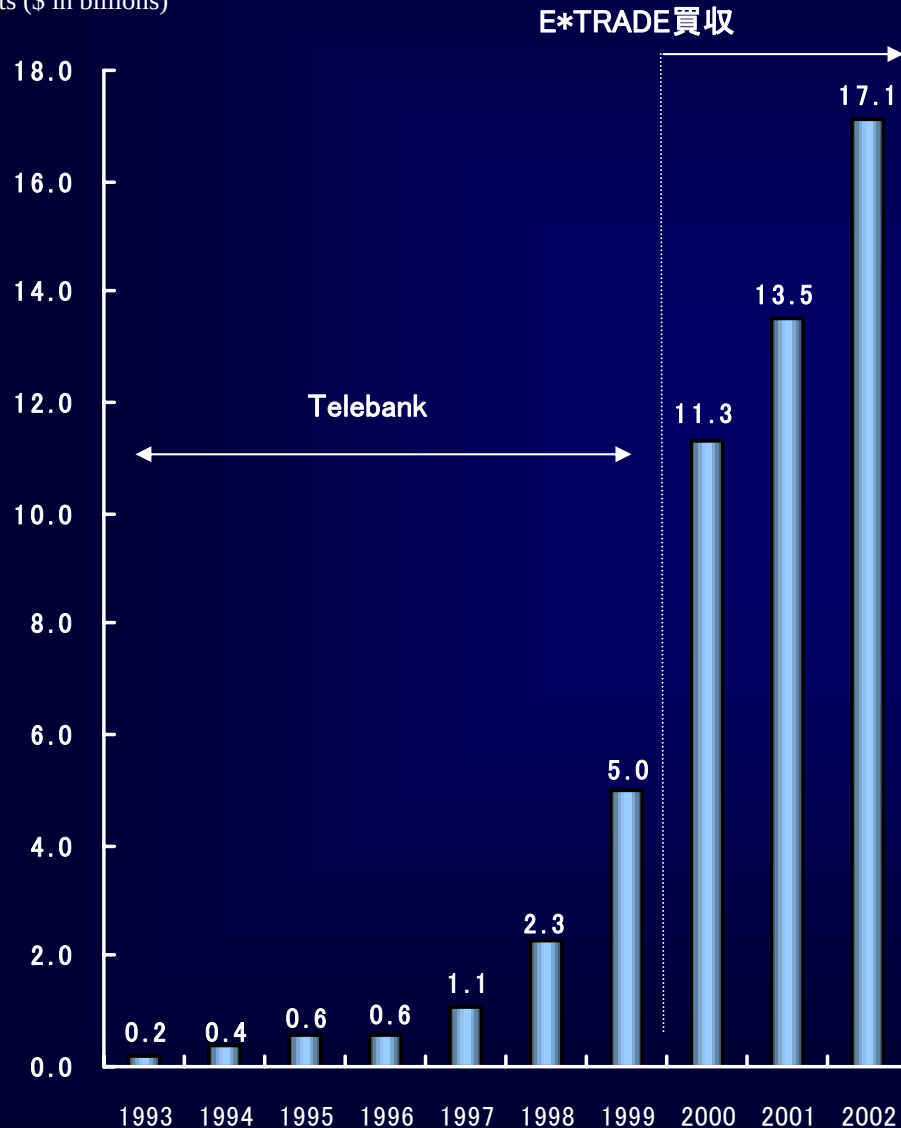


2004年

(ご参考③) 米国E*TRADE FINANCIAL Corporationの例

(1) TELEBANK買収後の銀行規模の拡大

Assets (\$ in billions)



2000.1.12	Telebankを買収
2000.4.4	業界で初めて、Online上で銀行と証券のサービスを両方利用できる「E*TRADE Bank」サービスを開始
2000.4.17	SIAN.comと組み、online上で中国語Bankingサービスを開始
2000.7.10	Embark.comと組み、大学生とその両親に向けたBankingサービスの提供を開始
2000.11.16	無期限で、スーパープレミアムな金利を提供する「Bank Money Market Plus Account」サービスを開始
2001.2.6	業界で初めて、オラクル社員向けに(社員専用)にカスタマイズしたBanking サービスを開始
2001.2.20	携帯端末向けに、銀行と証券のサービスを両方利用できるサービスを開始
2001.2.21	Online Bankingデモサービスを開始
2001.5.24	(将来の金利上昇に備え)金利が毎週見直され、\$100,000まで保証される口座「PrimeLink CD」サービスを開始
2001.10.10	Advanta National Bank (15,000人の顧客、\$389.7 millionの預かり)を買収
2002.1.11	Chase USAより、30,000人の顧客・\$1.7 billion以上の預かりを獲得
2003.1.9	銀行と証券口座間のリアルタイム資金移動サービスを開始

(ご参考④) 米国E*TRADE FINANCIAL Corporationの例

(2) 銀行・証券間のスムーズな資金移動

「Savings」口座⇔「Brokerage」口座へ振替・一覧表示

The screenshot displays the E*TRADE Quick Transfer interface within a Microsoft Internet Explorer browser window. The page title is "Quick Transfer Demo - Microsoft Internet Explorer". The E*TRADE FINANCIAL logo is at the top left, and "Quick Transfer" is at the top right. On the left sidebar, there are links for "Quick Transfer", "Transfer Funds", "Enroll External Account", and "Verify External Accounts". A blue button labeled "Apply Online >" with the phone number "1-800-ETRADE-1" is also present. A black arrow points from this button to the "Transfers: Pending" section. This section has tabs for "Transfer Money", "Pending", and "History". Below the tabs, there are dropdown menus for "Select an account:" (showing "Savings - 4567") and "Display transfers:" (showing "From this account"), with a "GO" button. A table lists pending transfers with columns: "Scheduled Date", "From Account", "To Account", "Amount", "Frequency", "Edit", and "Delete". The table contains several rows, with the row dated "6/7/04" showing a transfer from "Savings 4567" to "Brokerage 8901" for an amount of "\$2,000.00" on a "One Time" frequency. This row is highlighted with a red rectangle. Other rows show transfers to "Checking 5678", "Money Market 2345", and "IRA 3456". A yellow callout box with the text "Should your needs change, you can easily edit or cancel your pending transfers online." is positioned near the bottom of the table. At the bottom of the interface, there are navigation arrows and a "DISCLAIMER" link.

Scheduled Date	From Account	To Account	Amount	Frequency	Edit	Delete
6/8/04	Savings 4567	Checking 5678	\$200.00	Once a Month		
6/7/04	Savings 4567	Brokerage 8901	\$2,000.00	One Time		
6/7/04	Savings 4567	Money Market 2345	\$500.00	Once a Month		
6/7/04	Savings 4567	Checking 5678	\$700.00	One Time		
6/7/04	Savings 4567	IRA 3456				
6/7/04	Savings 4567	Brokerage 8901	\$2,300.00	Once a Month		

<http://www.sbinvestment.co.jp>

<http://www.etrade.ne.jp>

<http://www.wnfrontier.co.jp>